

平成20年度
神戸大学附属図書館年次報告

平成21年6月

編集：神戸大学附属図書館評価委員会

* 附属図書館ホームページにも掲載

<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/overview/>

平成20年度神戸大学附属図書館年次報告

1. 達成度評価

- (1) 達成度評価特記事項 p . 1
- (2) 達成度評価表 p . 2

2. 学習・教育支援

- (1) 開館サービス p . 6
- (2) 学生用資料整備 p . 7
- (3) 資料提供サービス p . 9
- (4) 情報リテラシー教育の推進支援 p . 10
- (5) 設備・機器の整備 p . 12

3. 学術研究支援

- (1) 研究用資料の整備 p . 14
- (2) 電子的情報基盤の整備 p . 16
- (3) 蔵書目録データベースの整備 p . 19
- (4) 資料の保存 p . 20
- (5) その他の研究支援サービス p . 21

4. 社会連携・情報発信

- (1) 一般市民への資料提供サービス p . 22
- (2) 震災文庫 p . 23
- (3) 電子図書館システムによる情報発信 p . 24
- (4) 機関リポジトリによる情報発信 p . 26
- (5) 国際連携 p . 27

5. 管理運営等

- (1) 図書館組織と運営 p . 29
- (2) 事務組織と人事管理 p . 30
- (3) 予算及び財務会計業務 p . 34
- (4) 施設整備・システム整備 p . 35
- (5) 図書館界での諸活動 p . 36

< 付録 >

基本統計表	p . 3 8
蔵書・受入等の現況（各館室別）	
サービス業務の現況（各館室別）	
電子的情報サービスの現況	
図書館組織図・事務組織図	p . 4 1
附属図書館諸会議（議題一覧、委員名簿）	p . 4 2
附属図書館予算・決算表（運営経費、資料費）	p . 5 0
附属図書館活動日誌	p . 5 2

1. 達成度評価

(1) 達成度評価特記事項

項目	「業務運営の改善及び効率化」
特記事項	該当なし
項目	「財務内容の改善」
特記事項	該当なし
項目	「自己点検・評価及び情報提供」
特記事項	<p>(年次報告書の拡充と利用者ニーズ・満足度調査) 平成18年度年次報告書に引き続いて平成19年度版を作成しホームページで公開した。平成19年度版は、国際連携として海外の図書館(韓国海洋大学校図書館)との連携協力の活動を追加し充実を図った。 また、利用者ニーズや利用者満足度を測る手段のひとつとして、平成20年度は、電子ジャーナル及びデータベースの整備に関するアンケート調査を教員及び院生等を対象として全学的に実施し、教員の41%及び院生の9%から回答を得た。集計結果は図書館HPから学内限定で公開している。</p>
項目	「その他業務運営に関する重要事項」
特記事項	<p>(職員の育成) 学外の各種図書館関連研修、情報関連研修、専門主題(漢籍・古典籍・医学等)に関わる研修に職員を派遣した。また、学内の国際業務研修や人文学研究科の古文書研修を職員に受講させた。その研修成果は、報告書の提出や報告会の開催等の義務付けにより他の職員の能力開発に役立てるとともに、日常業務のレベルアップや1年次必修科目「情報基礎」での図書館サービスの概説担当などの業務に生かされている。 また、職員に海外の先進図書館を調査・研究させ、業務に生かすとともに職員の育成を推進するため、その一環として平成20年度国立大学図書館協会海外派遣事業に応募し、選抜された本学職員をイリノイ大学モータンソンセンターに9月から8週間の研修プログラムで派遣し、研修成果は雑誌投稿等により公表する予定である。</p> <p>(社会科学系図書館の大閲覧室の空調設備設置及び照明器具更新) 社会科学系図書館大閲覧室は、昭和初期の建築様式を今に伝えるステンドグラスと高い天井を持ち、独特の雰囲気を生み出す空間であるが、建築(昭和8年)以来、冷房設備が設置されておらず、夏季の室内環境は劣悪で、学生、大学院学生からの改善要求は常態化していた。また、平日時間外は21時30分まで開館しており、夜間時の室内が極端に暗く閲覧環境として照度が不十分であった。これらの環境改善は長年の懸案であったが、平成20年度に大閲覧室に空調設備が設置されるとともに照明器具も更新され、利用者に快適な閲覧・学習環境を提供することが実現した。</p> <p>(総合・国際文化学図書館の集密書架設置) 総合・国際文化学図書館は、494,000冊(平成20年3月現在)の蔵書を持つ総合及び専門図書館であるが、館内の図書収容力は29万冊弱ほどしかなく、図書収容の限界に達しており、図書収容力の増強が喫緊の課題であった。建物改修に伴う施設整備によって平成20年度に電動式集密書架(約17,000冊収納)が設置され、これにより収容力の若干の改善が実現した。</p>
項目	「教育研究等の質の向上」
特記事項	<p>(学生用資料整備の進展) 平成20年度当初予算で図書館学生用資料費(63,000千円)が配分され、各館室の学生用資料の整備を継続することができた。特に、授業に関連した学生用資料の充実を図った。全体計画である「学生用資料整備計画大綱」に基づき、各館室の図書委員会が、目的、資料の範囲、財源及び選定方法を記した整備計画を策定し実施した。 なお、平成19年度に整備した学生用図書の選書及び利用状況に係る分析・評価を実施し、附属図書館運営委員会で報告・協議した。 また、シラバスに掲載されたテキスト・参考資料等の書誌情報約5,300件を取り出し、未所蔵分は新たに購入、OPACとリンク付けし、図書館HPから「シラバス掲載資料」として公開した。 さらに、学習の手引きとなる図書や在学中に是非読んで欲しい図書などを紹介する「先生からのおすすめ本」を公開するために、共通教育部会構成教員や附属図書館運営委員を中心に全教員を対象に、推薦図書の執筆依頼を行い、附属図書館HP上で公開した。</p> <p>(研究支援機能の強化) 附属図書館審議会答申「教育研究基盤資料の整備方策」を受けて、平成19年度から平成21年度まで電子ジャーナルなどの全学共同利用する教育研究基盤資料について部局拠出分を含む全学経費(上限3億円)が措置されることになり、平成20年度は、2.9億円が予算措置され、約10,500誌の電子ジャーナルと38種のデータベースを全学に提供している。併せて、各館室で備え付けるべき高額図書(1セット10万円から500万円まで)を整備した(19点2千万円)。 附属図書館審議会において、教育研究基盤資料の平成22年度からの新たな維持・整備方針を策定し、平成21年2月に答申としてまとめた。 また、学術情報資源へのアクセスの利便性を高めるために、リンクリゾルバ(データベース等の論文情報から電子ジャーナル等の本文への直接アクセス、オンライン蔵書目録(OPAC)等へのリンク及び文献複写申込みまでの学術情報入手の一連の流れを統合的にナビゲートするツール)を導入し、環境整備を図った。 学内研究成果については、「神戸大学学術成果リポジトリ」として、コンテンツの充実を図った(平成20年度末累計8,992件)。博士学位論文については全文の登録推進に向けて関係部署と協議を継続している。神戸大学研究者紹介システムとの相互リンクや国内外の統合検索サイトへのデータ提供を実施している。また、Kernel通信 第3号を発刊し、Kernelの運用状況等を学内外に公開した。</p> <p>(卒業生等への貸出サービスの実施) 本学卒業生及び修了者に対する図書資料の貸出しについて、附属図書館運営委員会で審議了承され、関係規則を改定し、運用方法を定め、実施に向けた諸準備を行い運用を開始した。</p> <p>(地域市民への資料公開等) 平成20年度は、社会科学系図書館2階の連絡通路常設展示コーナーにおいて、附属図書館第3回常設展を企画実施した。期間は9月から12月まで、「神戸から新天地へ - ブラジル移民の100年 -」をテーマとして開催した。 また、展示品目録はデジタル化し、図書館ホームページから公開している。 図書館展示会のページ http://www.lib.kobe-u.ac.jp/www/html/tenjikai/2008tenjikai/2008tenji.html また、兵庫県立図書館で公開されている兵庫県内図書館横断検索に参加し、県内公共図書館等と横断的な所蔵検索が可能となった。人と防災未来センターとの間で震災関係資料の横断検索システムを構築し、公開している。</p>

(2) 達成度評価表

平成19年度附属図書館の活動総括として、附属図書館年次計画に対する達成度自己評価表を示す。

全学中期計画 (図書館年次計画関連部分のみ抜粋)	附属図書館年次計画	自己 評価	自己評価判断理由
<p>大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 教育に関する目標を達成するための措置</p> <p>(4)教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置</p> <p>教育設備、図書館、情報ネットワーク等の活用・整備の具体的方策</p> <p>・全学共通教育等の実施に必要な図書館機能を整備するとともに、教養・専門図書、映像音響資料等の学生用資料を充実させる。</p>	<p>・総合図書館開架閲覧室の書架・閲覧席配置見直しなど、全学共通教育科目履修生の学習環境改善を図る。(H17-21)(附属図書館)</p> <p>・各図書館室で不足または老朽化している家具類(閲覧机、閲覧椅子、書架等)、視聴覚機器、情報端末、無断持ち出し防止装置、自動貸出装置等を計画的に整備する。(H17-21)(附属図書館)</p> <p>・各館室において、閲覧・学習環境の改善を図る(既設スペースの有効活用による閲覧室の拡張・図書収容力の増加、空調設備の更新等)。(H17-21)(附属図書館)</p> <p>・全学共通教育に対応する総合図書館、及び専門教育を支援する各専門図書館・分館において、学部学生に必要な教養・専門図書(シラバス掲載図書を含む)を幅広く網羅した系統的な資料収集に努めるとともに、利用状況の分析および収集資料の評価を継続する。(H19-21)(附属図書館)</p>		<p>平成20年度、総合図書館の学習環境改善として以下を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・閲覧机・椅子の増設 ・ブラインド及びロールカーテンの設置 ・館内放送設備の整備 ・電動式集密書架の新設 ・無断持ち出し防止装置の増設 ・防犯カメラ装置の設置 ・誘導灯の設置 ・資料配置の見直し <p>平成20年度、各図書館室の設備備品整備として以下を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示会用キャビネットの設置(社会科学系図書館) ・防犯カメラ装置の設置(人文科学図書館) ・防犯カメラ装置の増設(社会科学系図書館、自然科学系図書館) ・自動貸出装置の更新(人文科学図書館) ・マイクロフィルムキャビネットの設置(人文科学図書館) ・電動式集密書架の修理(人文科学図書館) ・木製カウンターの更新(人間科学図書館) ・書架の増設(保健科学図書館) ・修士論文用保管庫の設置(保健科学図書館) ・24時間開館管理システム用パソコン更新(医学分館) ・忘れ物用ロッカーの設置(医学分館) <p>平成20年度、各図書館室の閲覧学習環境の改善として以下を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大閲覧室の空調設備設置及び照明器具更新(社会科学系図書館) ・空調設備修理(自然系図書館、人文科学図書館) ・自動貸出装置の更新(人文科学図書館) <p>全体計画である「学生用資料整備計画大綱」に基づき、各館室の図書委員会が、目的、資料の範囲、財源及び選定方法を記した整備計画を策定し実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度当初予算で図書館学生用資料費(63,000千円)が配分され、各館室の学生用資料の整備を継続した。特に、授業に関連した学生用資料の充実を図った。また、シラバスに掲載されたテキスト・参考資料等の書誌情報約5,300件を取り出し、未所蔵分は新たに購入、OPACとリンク付けし、図書館HPから「シラバス掲載資料」として公開した。 ・各館室において平成19年度に整備した学生用図書の選書及び利用状況に係る分析・評価を実施し、平成20年度の附属図書館運営委員会で報告・協議した。 ・学習の手引きとなる図書や在学中に是非読んで欲しい図書などを紹介する「先生からのおすすめ本」を公開するために、共通教育部会構成教員や附属図書館運営委員を中心に全教員を対象に、推薦図書の執筆依頼を行い、附属図書館のホームページ上で公開した。
<p>(6)学生への支援に関する目標を達成するための措置</p> <p>学習相談、助言及び支援の組織的対応に関する具体的方策</p> <p>・附属図書館においては、資料提供や情報検索などのサービスの迅速化と高度化を図るとともに、情報教育を積極的に支援する。</p>	<p>・情報リテラシー教育支援体制を強化し、入学段階・教養教育・学部専門教育といったレベルや、専門分野を考慮した、きめ細かなオリエンテーション、ガイダンスを実施する。(H16-21)(附属図書館)</p> <p>・図書館ホームページの改訂、図書館メールマガジンの発行などICT技術の活用により、学生に対する情報提供や広報活動を強化する。(H19-21)(附属図書館)</p> <p>・電子的学習資料の提供、Web情報資源情報の拡充など、自学自習のための窓口(ポータル)機能を充実する。(H19-21)(附属図書館)</p> <p>・資料配送(デリバリ)サービスを拡充し、学部学生に対しても六甲台キャンパス内各図書館間の配送サービスについて段階的な実施を検討する。(H19-20)(附属図書館)</p> <p>・全学の図書目録遊及入力を計画的に推進する。(H18-21)(附属図書館)</p> <p>・開館時間延長、休日開館の拡大を優先順位に基づいて、実施していく。(H18-21)(附属図書館)</p>		<p>・1年次必修科目「情報基礎」における情報リテラシー教育支援は、昨年度の2/3コマから今年度は1コマ(90分)に拡大した中で、WGで構成した職員が図書館の活用とサービスの概説を延べ24回担当し、全クラス約2,700人が受講した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各館室において新入生オリエンテーション及び館内ツアーを実施した。 ・附属図書館の前期・後期ガイダンス及び情報検索等の説明会は、各館室において学部の専門分野に対応するデータベースを使用の上、計93回実施し、1,157名が受講した。 ・就職活動中の学生を対象に、キャリアセンターとの協力のもと就職情報収集のための説明会及びレポートや卒業論文作成の支援としてのデータベース講習会等を外部から専門講師を招き、合わせて8回実施した。 ・「情報基礎」については、来年度に向けて授業内容を検討するとともに、演習問題や各館室紹介ビデオ作成のための準備作業を行った。 ・学生用のリーフレット版図書館利用案内を全学版と各館室版を作成し配付するとともに、ガイダンス資料もデータベース毎に編集し配付提供した。 <p>昨年度に引き続き、学生に対する情報提供や広報活動については、ICT技術を使ったより効果的な方法を検討した。今年度は、図書館を使った就職情報を提供するため「就活応援情報収集アラカルト」にまとめHPに掲載している。またガイダンスなど申込みが携帯電話によって容易に出来るQRコードを張付けて情報が確実に届くよう配慮した。</p> <p>なお、図書館HP(トップページ)へのアクセス件数は、月平均約62,300件あり、前年度に並ぶ件数となっている。</p> <p>学習用Web版資料(E-Study資料)については、平成19年度のサービス内容を維持した。</p> <p>また、学術情報資源へのアクセスの利便性を高めるために、リンクリソルバ(データベース等の論文情報から電子ジャーナル等の本文への直接アクセス、オンライン蔵書目録(OPAC)等へのリンク及び文献複写申込みまでの学術情報入手の一連の流れを統合的にナビゲートするツール)を導入し、環境整備を図った。</p> <p>デリバリー量は現状のサービスの範囲内においても増加傾向であり、建物改修により一部の館でサービスを休止した平成19年度を除き、貸出数自体が毎年20%前後の増加傾向にあることも考え合わせると、学部学生への拡大(六甲台キャンパス間)については、デリバリーに係る経費及び職員の業務負担の増加が不可避である。特に業務量の増大は2~3倍になると予想され、現状の人員体制では対応が困難であるため、当面実施しないこととした。なお、図書に貼付しているOCR(図書ID)ラベルに重複するものが存在することが判明し、その解決が喫緊の課題となっており、平成20年度は、返却時にOCRラベルをバーコードラベルに貼り替える等作業を進めた。</p> <p>図書目録遊及入力事業を継続し、当初計画の2万7千冊を対象に入力作業を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科学系図書館中国書、総合・国際文化学図書館及び研究所図書館和書・洋書等(24,675冊)外部委託作業 ・その他研究室返却資料等(55,929冊)職員作業 <p>職員による入力を進めた結果、目標数を大幅に上回る80,604冊の入力を達成した。</p> <p>平成18年度から実施している平日夜間開館及び土日開館の時間延長を継続した。なお、各館室の利用動向を鑑みて、平成20年度に開館時間の延長を行っていなかった人間科学図書館において試行的に開館時間の延長(平日20時までを21時まで)を実施した。</p>

全学中期計画 (図書館年次計画関連部分のみ抜粋)	附属図書館年次計画	自己 評価	自己評価判断理由
<p>2 研究に関する目標を達成するための措置 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置 研究活動支援のための具体的方策</p> <p>・研究活動の支援のため、教員のみならず、研究支援職員に対する研修等も含め、自発的能力向上のための機会を増やし、また、図書館・学内共同利用施設など機能の充実を図る。</p>	<p>・専門的情報サービスが行えるよう、専門主題に関する一定の知識及び専門資料に関する知識を持った職員の育成を図るとともに、海外の先進図書館の調査・研究に派遣し、国際化に対応した職員の能力開発を推進する。(H20-21)(附属図書館)</p>		<p>・学外の各種図書館関連研修、情報関連研修、専門主題(漢籍・古典籍・医学等)に関わる研修に職員を派遣した。また、学内の国際業務研修や人文科学研究科の古文書研修を職員に受講させた。その研修成果は、報告書の提出や報告会の開催等の義務付けにより他の職員の能力開発に役立てるとともに、日常業務のレベルアップや1年次必修科目「情報基礎」での図書館サービスの概説担当などの業務に生かされている。</p> <p>・職員に海外の先進図書館を調査・研究させ、業務に生かすとともに職員の育成を推進するため、その一環として平成20年度国立大学図書館協会海外派遣事業に応募し、選ばれた本学職員をイリノイ大学モーションセンターに9月から8週間の研修プログラムで派遣し、研修成果は雑誌投稿等により公表する予定である。</p>
<p>(2) 研究実施体制等の整備に関する目標を達成するための措置 研究に必要な設備等の活用と整備に関する具体的方策 附属図書館においては、電子資料等を含む学術情報の収集と提供、外国雑誌センター館機能、他大学等との協同及び電子図書館システムによる情報発信など、研究支援機能の整備・強化を図る。</p>	<p>・電子ジャーナルなどの全学共同利用する研究基盤資料の整備について、厳しい財政状況のもとで持続可能な方策を検討し、学術情報インフラを計画的・安定的に提供する。(H18-21)(附属図書館)</p>		<p>・附属図書館審議会答申「教育研究基盤資料の整備方策」を受けて、平成19年度から平成21年度まで電子ジャーナルなどの全学共同利用する教育研究基盤資料について部局拠出分を含む全学経費(上限3億円)が措置されることになり、平成20年度は、2.9億円が予算措置され、約10,500誌の電子ジャーナルと38種のデータベースを利用できる環境を整備した。併せて、各館室で備え付けるべき高額図書(1セット10万円から500万円まで)を整備した(19点2千万円)。</p> <p>・図書館審議会において、教育研究基盤資料の平成22年度からの新たな維持・整備方針を策定し、答申としてまとめた。</p> <p>・電子ジャーナル及びデータベースの利用状況を把握し、その審議の参考とするため、教員及び院生等を対象に全学アンケート調査を実施し、教員の41%及び院生の9%から回答を得た。集計結果は、図書館HPから学内限定で公開している。</p> <p>・学術情報資源へのアクセスの利便性を高めるために、リンクリゾルバ(データベース等の論文情報から電子ジャーナル等の本文への直接アクセス、オンライン蔵書目録(OPAC)等へのリンク及び文献複写申込みまでの学術情報入手の一連の流れを統合的にナビゲートするツール)を導入し、環境整備を図った。</p>
	<p>・人文・社会科学分野の学術雑誌に関する全国共同利用の拠点図書館として、外国雑誌センター館機能の整備に努める。(H16-21)(附属図書館)</p>		<p>・前年度に引き続き、社会科学系図書館において国内未収の外国雑誌約1,000誌を収集し、全国に文献複写等の情報サービスを実施するとともに、学外からの複写依頼に迅速に対応するため、複写作業の外部委託を継続した。</p> <p>・利用サービスの改善を図った点は、以下のとおりである。</p> <p>学内外の利用者への迅速な雑誌所蔵情報提供のために、国立情報学研究所全国総合目録データベースへのデータ更新をほぼ毎日行った。</p> <p>外国雑誌センター館収集タイトルとして判別し易いように個別コーナーを設け、案内板を掲げた。</p> <p>閲覧の利便性を考え、収納用ボックスファイルを購入し、区分して配架した。</p>
	<p>・一次資料(図書・雑誌等)の十分な整備に努める。特に、各専門分野の基幹部分に欠落が生じないように、継続的かつ体系的な収集体制を構築する。(H16-21)(附属図書館)</p>		<p>附属図書館審議会答申「教育研究基盤資料の維持・整備方策」を受け、部局拠出分を含む全学経費を確保し、平成20年度は、2.9億円が予算措置され、各分野の研究基盤として重要な雑誌(電子ジャーナルを含む)及びデータベースを継続的・安定的に維持するとともに高額図書の整備(19点)を実施した。</p>
	<p>・全学の図書目録遊及入力を計画的に推進する。(H18-21)(附属図書館)</p>		<p>図書目録遊及入力事業を継続し、当初計画の2万7千冊を対象に入力作業を行った。</p> <p>・社会科学系図書館中国書、総合・国際文化学図書館及び研究所図書館和書・洋書等(24,675冊)外部委託作業</p> <p>・その他研究室返却資料等(55,929冊)職員作業</p> <p>職員による入力を進めた結果、目標数を大幅に上回る80,604冊の入力を達成した。</p>
	<p>・本学の蔵書では満たされない情報要求にも十分応えるため、海外を含めた図書館間相互利用の拡大と、電子的手法を駆使した迅速な提供体制を構築する。(H16-21)(附属図書館)</p>		<p>電子的文献送達システム(DDS:ドキュメント・デリバリー・システム)については、各館に設置している複写機のスキャナ機能を活用する方法に変更し、平成20年度から全館室で実施し、迅速な資料提供体制を構築した。</p> <p>平成19年12月の韓国海洋大学校図書館との協力協定の締結に基づいて、資料交換の手続きを開始した。</p>
	<p>・電子図書館システムのコンテンツ充実(震災文庫・新聞記事・所蔵貴重資料・教育研究成果等)と検索機能の高度化を図る。(H18-21)(附属図書館)</p>		<p>・電子図書館事業により、震災関係資料、経済関係資料及び学内研究成果等のコンテンツ作成を継続実施した。経済関係資料については、平成19年度に引き続き、科学研究費研究成果公開促進費の交付を受け、新聞記事文庫の事業を継続した(約17,000記事を全文テキスト化し、累計記事数は約22万件となった)。また、国立国会図書館デジタルアーカイブポータルPORTALに登録し、その検索対象アーカイブとなった。これにより利用法・利用数の拡大が期待される。</p> <p>・同じく経済関係資料として住田文庫の資料8点を電子化公開した。さらに、「上海週報」17年分、「鈴木商報」7年分、「経済週報」3年分を電子化し、これらのウェブ公開について著作権上の調査を開始した。</p> <p>・所蔵貴重資料のうち、近代化産業遺産指定資料「総業中松方社長對職工側委員意見録並営業時間及賃銀改正二關スル願未」の電子化・公開を行った。</p> <p>・平成20年度のHPアクセス数は震災文庫が約41,000件、学内研究成果が約87,000件(うちリボトリーは約43,000件)、新聞記事文庫が約69,000件、所蔵貴重資料が約16,000件であった。</p>
	<p>・「神戸大学学術成果リポジトリ」の充実を図る。(H20-21)(附属図書館)</p>		<p>・「神戸大学学術成果リポジトリ(Kernel)」として、コンテンツの充実を図った(平成20年度:1,783件、累計8,992件)。</p> <p>・博士學位論文に関しては、昨年度に学務部学務課と協議を行った要旨集について、今年度より冊子体を廃し、電子図書館での公開のみとし(公開済み)、過去の要旨集2年分の電子化作業を行った。また、Kernelへの全文の登録推進に向けて関係部署と協議を継続している。</p> <p>・国立情報学研究所(CiNii)から機関リポジトリの論文にリンクできる「CiNii-IR」に参加した。</p> <p>・Kernel通信 第3号を発刊し、Kernelの運用状況等を学内外に公開した。</p> <p>・筑波大学ほかとの著作権ポリシー共有機能に今期も参加し、学協会との懇談会(8月)に職員を出席させた。学協会のウェブ公開ポリシー調査は2月に行った。</p> <p>・リポジトリ事業の促進および他館との情報交換のため、6月の平成19年度CSI事業報告交流会(於NII)、11月のDRFワークショップ(於パフィコ横浜第10回図書館総合展)、1月のDRF地域ワークショップ(於大阪大学)に職員を参加させた。</p> <p>・千葉大学代表によるCSI領域2事業「機関リポジトリアウトプット評価のためのシステム」(ROAT)にアクセスログを提供した。また2月に行われた「機関リポジトリアウトプット評価システム」ワークショップに職員を派遣した。</p>

<p>全学中期計画 (図書館年次計画関連部分のみ抜粋)</p>	<p>附属図書館年次計画</p>	<p>自己 評価</p>	<p>自己評価判断理由</p>
<p>3 その他の目標を達成するための措置 (1) 社会との連携に関する目標を達成するための措置 地域社会等との連携・協力、社会サービス等に係る具体的方策 ・附属図書館においては、夜間及び休日開館を含め、資料提供等による生涯学習の支援を行い、地域社会への貢献を図る。</p>	<p>・附属図書館資料展示会を開催し、地域市民に公開するなど、引き続き、図書館の公開サービスの充実を図る。(H18-21)(附属図書館)</p> <p>・地域の公共図書館等との間で、相互利用や研修活動など、積極的な連携協力を図る。(H17-21)(附属図書館)</p> <p>・「震災文庫」を地域住民や防災関係者等の幅広い研究ニーズに応えるため、資料の収集とデジタル化を更に進め、最大規模の関連資料コレクションとして、広く社会に公開する。(H16-21)(附属図書館)</p>		<p>平成19年度に引き続き、社会科学系図書館2階の連絡通路常設展示コーナーにおいて、附属図書館常設展を企画実施した。期間は9月26日から12月19日まで、「神戸から新天地へ - ブラジル移民の100年 -」をテーマに開催した。また、学外者への館外貸出サービスを継続している。(総合・国際文化学図書館及び海事科学分館、放送大学兵庫学習センター等利用者については全館室)</p> <p>本学卒業生及び修了者に対する図書資料の貸出しについて、附属図書館運営委員会で審議了承され、関係規則を改定し、運用方法を定め、実施に向けた諸準備を行い運用を開始した。</p> <p>・平成19年度に引き続き、兵庫県大学図書館協議会加盟館の図書館相互協力を促進し、県立図書館を通じて県内公立図書館に情報を提供した。(同協議会の会長館、企画委員館としての活動)平成20年度は、研修担当館として、講演会及び研究会を企画し、開催した。</p> <p>・兵庫県大学図書館協議会として第94回全国図書館大会兵庫大会(9月18日～19日)に協力し、第2分科会(大学・短大・高専)の企画・運営を行った。</p> <p>・兵庫県立図書館で公開されている兵庫県内図書館横断検索に参加し、県内公共図書館等と横断的な検索が可能となった。</p> <p>・国立情報学研究所との共催により「目録システム講習会(図書コース)」を9月24日から26日までの2.5日間社会科学系図書館で開催し、西日本の14機関から15名が参加した。</p> <p>・兵庫県が実施している中学生の地域体験活動「トライやるウィーク」に協力し、神戸市立本庄中学校(神戸市東灘区)の生徒5名を6月12日に、神戸市立鷹匠中学校(神戸市灘区)の生徒3名、神戸市立長田中学校(神戸市長田区)の生徒3名を、11月10日から14日までの5日間受け入れ、図書館職場体験の場を提供した。</p> <p>・平成19年度に引き続き、資料収集を進めるとともに、「震災文庫電子化」を継続した(新規受入1,365点、電子コンテンツ作成 図書6点)。これにより資料総数は44,288点、電子コンテンツ作成総数は約4,700点となった。</p> <p>・平成20年度の来館者数は231名、HPアクセス数は約41,000件であった。</p> <p>・7月の専門図書館協議会全国研究会第5分科会「アーカイブの現状と今後」、9月の全国図書館大会兵庫大会第9分科会「資料保存」に職員を派遣し、震災文庫の取組について報告した。また、1月には人と防災未来センターとの間で資料の横断検索システムを構築・公開し、これに関連して2月に同センターで行われた「第9回阪神・淡路大震災資料の保存・活用に関する研究会」に職員を派遣し、報告を行った。</p>
<p>地域の公私立大学等との連携・支援に関する具体的方策 近隣の公私立大学等が集合する会館等において、教育研究交流を推進するとともに、大学関係に関する様々な課題について意見交換を行い、問題解決にあたっての連携を図る。</p>	<p>・引き続き、兵庫県大学図書館協議会の中心的な図書館として活動し、県内公私立大学図書館との連携を強化する。(H16-21)(附属図書館)</p>		<p>・引き続き協議会会長館を務め、総会・講演会・研究会等の事業の企画・運営を行った。</p> <p>・第94回全国図書館大会兵庫大会(9月18日～19日)に協力し、第2分科会(大学・短大・高専)の企画・運営を行った。</p> <p>・平成21年度の新たな事業計画として海外研修事業を企画し、平成20年度中に要項等の整備及び募集を行った。</p> <p>・協議会加盟館の名簿及び相互協力便覧の改訂版を作成し、配付・公開した。</p>
<p>業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置 国立大学間の自主的な連携と協働体制に関する具体的方策 ・各種ブロック会議への参加や共同研修、人事交流等を通じ、大学運営に関する共通事項に関して情報交換を行い、問題解決にあたっての連携と協力を図る。</p>	<p>・国立大学図書館協会を中心とする電子ジャーナルコンソーシアム、図書館間相互貸借活動、各種共同研修等の連携・協力を維持・発展させる。(H16-21)(附属図書館)</p>		<p>・引き続き、国立大学図書館協会の監事館として理事会・総会に出席し、会計監査等を行った。</p> <p>・国立大学図書館協会電子ジャーナルコンソーシアムにも引き続き参加した。</p> <p>・近畿地区の公私立大学図書館の連携・協力組織である「大学図書館近畿イニシアティブ」の運営委員館として活動した。また、能力開発専門委員会に委員を派遣した。</p>
<p>3 教職員の人事の適正化に関する目標を達成するための措置 事務職員等の採用、養成、人事交流に関する具体的方策 ・特別な知識を必要とする者(例えば情報関係、特許関係、訴訟関係、診療報酬請求関係、労務管理関係等)の採用方法等を検討する。</p>	<p>・地区の職員採用試験に参加し、専門性(図書館学、情報技術、主題知識等)を考慮した図書系職員採用を行う。(H16-21)(附属図書館)</p>		<p>・近畿地区国立大学法人等職員採用図書系専門試験実施委員会の委員館として企画・運営に関わった。</p> <p>・平成20年4月に上記試験合格者を1名採用した。</p>
<p>専門性の向上を図るための専門研修の実施等について検討する。</p>	<p>・新しい図書館経営等に関する知識のほか、専門的情報サービスが行えるよう、専門主題に関する一定の知識及び専門資料に関する十分な知識を持った職員の育成を図るとともに、海外の先進図書館の調査・研究に派遣し、国際化に対応した職員の能力開発を推進する。(H20-21)(附属図書館)</p>		<p>・学外の各種図書館関連研修、情報関連研修、専門主題(漢籍・古典籍・医学等)に関わる研修に職員を派遣した。また、学内の国際業務研修や人文学研究科の古文書研修を職員に受講させた。その研修成果は、報告書の提出や報告会の開催等の義務付けにより他の職員に能力開発に役立てるとともに、日常業務のレベルアップや1年次必修科目「情報基礎」での図書館サービスの概説担当などの業務に生かされている。</p> <p>・職員に海外の先進図書館を調査・研究させ、業務に生かすとともに職員の育成を推進するため、その一環として平成20年度国立大学図書館協会海外派遣事業に応募し、選ばれた本学職員をイリノイ大学モータンソンセンターに9月から8週間の研修プログラムで派遣し、研修成果は雑誌投稿等により公表する予定である。</p>
<p>4 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置 事務組織の機能の見直しに関する具体的方策 ・事務の一元化・集中化と並行して、事務組織の横断的かつ総合的なサービス機能を発揮できる体制について検討する。</p>	<p>・全学業務改善プロジェクトの成果を参考に、研究・教育活動に密着した支援サービスに対応した事務組織体制等を検討し、業務の合理化・質的向上と職員の活力向上を図る。(H20-21)(附属図書館)</p>		<p>附属図書館事務部に附属図書館業務改善検討WG及び課題毎の検討WGを設置し、既存業務の見直し・改善や、新規業務の具体化・研究・教育活動に密着した支援サービスに対応した事務組織の在り方などの検討を進め、平成20年度は情報サービス課を2課長補佐体制に増強するとともに、定員削減に併せて海事科学分館において情報管理係を情報サービス係に一本化し図書館サービス体制の強化を図った。</p>

<p>全学中期計画 (図書館年次計画関連部分のみ抜粋)</p>	<p>附属図書館年次計画</p>	<p>自己 評価</p>	<p>自己評価判断理由</p>
<p>事務処理の効率化と合理化に関する具体的方策</p> <p>・各種事務処理を見直すとともに、平成17年度以降に学内ネットワークのアップグレードにより情報の共有化を図り、文書管理、会議の開催通知、会議室の予約管理など事務処理の簡素化と迅速化を図る。</p>	<p>・全学業務改善プロジェクトの成果に基づき、さらに各館室の業務標準化、自動化、簡素化を推進する。(H18-21)(附属図書館)</p>		<p>平成20年度は、業務標準化や簡素化に向けて以下の検討を進めた。 ・各種手続きの統一など図書館サービス業務の標準化・簡素化に向けて、WGを設置し検討した。ネットワークと文庫画像伝送システムを活用した文献複写サービスに関しては、DDS(ドキュメントデリバリーサービス)を平成20年度から全館室で実施している。また、卒業生への貸出サービスの実施に向けた諸準備を行い運用を開始した。 ・業務改善プロジェクトの業務削減対応策による「選書データベースを活用した書店発注システム」が20年12月に稼働した。また、予算管理の一元化等、会計処理の効率化を図り、同対応策実現のため、新財務会計システム仕様策定委員会に附属図書館職員も参加し、図書館の会計処理を新財務会計システムで実施できる機能が同システム仕様書に盛り込まれた。 ・図書分類の標準化について、WGを設置して検討したモデル案について係長会議で意見を集め、再度WGで検討した。実施時期等については「図書分類法」の改定に合わせて実行することとした。</p>
<p>業務の外部委託等に関する具体的方策</p> <p>・業務処理の点検を行い、職員の業務を分析し、費用対効果を考慮して業務の外部委託を実施し、業務の合理化に努める。</p>	<p>・全学業務改善プロジェクトの成果に基づき、アウトソーシングの導入を検討する。(H18-21)(附属図書館)</p>		<p>平成20年度は、以下のアウトソーシングを継続した。 ・雑誌製本業務に関連した定型的業務 ・目録データ・装備付き納品業務(9,039冊) ・文献複写業務(社会科学系図書館) ・時間外開館サービス業務(社会科学系図書館及び医学分館)</p>
<p>財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置</p> <p>資産の効率的運用を図るための具体的方策</p> <p>・継続的な施設の点検と評価を踏まえ、教育研究活動に応じた効果的なスペース配分など、施設の有効活用を推進する全学的方針の確立を図る。</p>	<p>・貴重図書の管理・保管体制を整備するとともに、資料劣化への対策を実施する。(H19-21)(附属図書館)</p>		<p>劣化が進んでいる雑誌や新聞類を中性紙箱に入れ保管した。また、住田文庫の絵図等2点について、修復補修作業を実施した。</p>
<p>自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 評価の基本的な目標を達成するための具体的措置</p> <p>合理的な評価システムを形成するための具体的方策</p> <p>・評価のレベルを次のように分け、これらを重層的に進めて評価を行う。</p>	<p>・毎年、図書館活動全般に及び年次報告書を作成し、活動全般、年次計画達成度等についての自己点検評価を行うとともに、全学的な評価あるいは外部評価にも耐えられるデータを蓄積、整備する。(H18-21)(附属図書館)</p>		<p>・昨年度に引き続き、図書資産の点検を社会科学系図書館、経済経営研究所図書館及び海軍科学分館において実施した。 なお、点検方法及び点検対象について、大幅な見直しを行うためWGを設置し検討を進めた。 また、自然科学系図書館、医学分館及び海軍科学分館等において、重複資料等の処分を行った。 併せて、重複資料・不用資料の計画的な処分について、WGを設置し検討を進め、その結果、逐次刊行物について重複状況の基礎調査を改訂し、重複雑誌の保管責任館の1次案を完成するとともに、重複雑誌の整理について基本的な手順を作成した。</p>
<p>自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 評価の基本的な目標を達成するための具体的措置</p> <p>合理的な評価システムを形成するための具体的方策</p> <p>・評価のレベルを次のように分け、これらを重層的に進めて評価を行う。</p>	<p>・毎年、図書館活動全般に及び年次報告書を作成し、活動全般、年次計画達成度等についての自己点検評価を行うとともに、全学的な評価あるいは外部評価にも耐えられるデータを蓄積、整備する。(H18-21)(附属図書館)</p>		<p>附属図書館評価委員会を開催し、平成21年度年度計画及び平成20年度年度計画達成度評価について検討した。 また、昨年に引き続き「年次報告」を作成、根拠資料の蓄積を図る予定である。</p>
<p>自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 評価の基本的な目標を達成するための具体的措置</p> <p>合理的な評価システムを形成するための具体的方策</p> <p>・評価のレベルを次のように分け、これらを重層的に進めて評価を行う。</p>	<p>・図書館ホームページに投書箱を設けるなど、継続的に利用者ニーズを把握する方法を検討し、実施する。(H19-21)(附属図書館)</p>		<p>電子ジャーナル及びデータベースの整備に関するアンケート調査を教員及び院生等を対象に全学的に実施し、教員の41%及び院生の9%から回答を得た。集計結果を図書館HPから学内限定で公開している。 図書館ホームページに設置した投書箱には20年度は27件の問い合わせがあり、利用者からのニーズに対応した。</p>
<p>自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 評価の基本的な目標を達成するための具体的措置</p> <p>合理的な評価システムを形成するための具体的方策</p> <p>・評価のレベルを次のように分け、これらを重層的に進めて評価を行う。</p>	<p>・重複資料、不用資料等の処分を計画的に実施し、累積的な蔵書増加を抑制、書架の有効利用を図る。(H17-21)(附属図書館)</p>		<p>自然科学系図書館、医学分館及び海軍科学分館等において、重複資料等の処分を行った。 併せて、重複資料・不用資料の計画的な処分について、WGを設置し検討を進め、その結果、逐次刊行物について重複状況の基礎調査を改訂し、重複雑誌の保管責任館の1次案を完成するとともに、重複雑誌の整理について基本的な手順を作成した。</p>
<p>自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 評価の基本的な目標を達成するための具体的措置</p> <p>合理的な評価システムを形成するための具体的方策</p> <p>・評価のレベルを次のように分け、これらを重層的に進めて評価を行う。</p>	<p>・各館室において、閲覧・学習環境の改善を図る(既設スペースの有効活用による閲覧室の拡張・図書収容力の増加、空調設備の更新等)。(H17-21)(附属図書館)</p>		<p>平成20年度、各図書館室の閲覧学習環境の改善として以下を実施した。 ・大閲覧室の空調設備設置及び照明器具更新(社会科学系図書館) ・自動貸出装置の更新(人文科学図書館) ・閲覧机・椅子の増設(総合・国際文化学図書館) ・ブラインド及びロールカーテンの設置(総合・国際文化学図書館) ・電動式集書架の新設(総合・国際文化学図書館) ・資料配置の見直し(総合・国際文化学図書館) ・展示会用キャビネットの設置(社会科学系図書館) ・自動貸出装置の更新(人文科学図書館) ・マイクロフィルムキャビネットの設置(人文科学図書館) ・木製カウンターの更新(人間科学図書館) ・書架の増設(保健科学図書館) ・修士論文用保管庫の設置(保健科学図書館) ・24時間開館管理システム用パソコン更新(医学分館) ・忘れ物用ロッカーの設置(医学分館)</p>
<p>自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>2 安全管理に関する目標を達成するための措置</p> <p>労働安全衛生法、学校保健法等を踏まえた安全衛生管理、保健管理及び事故防止に関する具体的方策</p> <p>・実験室等の安全点検を定期的に実施し、必要な補修、改修更新等の処置を実施する。</p>	<p>・図書館施設・設備の安全点検に努め、利用者・職員の事故等防止のための措置を着実に進める。(H18-21)(附属図書館)</p>		<p>安全衛生委員の館内点検を毎週継続実施している。 平成20年度は、安全衛生に関わる普請工事に以下を実施した。 ・館内放送設備の設置(総合・国際文化学図書館) ・誘導灯設置(総合・国際文化学図書館) ・防犯カメラ装置の設置(総合・国際文化学図書館、人文科学図書館) ・防犯カメラ装置の増設(自然科学系図書館) ・電動式集書架の修理(人文科学図書館) ・無断持ち出し防止装置の増設(総合・国際文化学図書館) ・入口自動ドア錠の修理(医学分館) ・空調機修理(自然科学系図書館、人文科学図書館) ・電気錠の設置(社会科学系図書館)</p>

2. 学習・教育支援

(1) 開館サービス

< 開館状況 >

		総合・国際	社会科学系	自然科学系	人文科学	人間科学	研究所	医学分館	保健科学	海事分館
通常期	平日	8:45-21:30	8:45-21:30	8:45-21:30	8:45-20:00	8:45-21:00	8:45-17:00	8:45-21:00	8:45-20:00	8:45-20:00
	土曜	10:00-18:00	10:00-18:00	10:00-18:00	10:00-18:00	10:00-18:00	休館	9:00-17:00	10:00-18:00	10:00-18:00
	日曜	休館	10:00-18:00(注1)	休館	休館	休館	休館	休館	休館	休館
休業期	平日 17:00まで 土日休館	8月のみ 土日休館	平日 17:00まで 土日休館	平日 17:00まで 土日休館	平日 17:00まで 土日休館	通常期と同じ	通常期と同じ	通常期と同じ	平日 17:00まで 土日休館	平日 17:00まで 土日休館
試験期 特別開館	日祝 10:00-18:00	祝 10:00-18:00	日祝 10:00-18:00	平日21:00 まで延長 日祝 10:00-18:00	日祝 10:00-18:00	通常期と同じ	通常期と同じ	通常期と同じ	通常期と同じ	平日21:00 まで延長 日祝 10:00-18:00

(注1) 毎月第1日曜日は除く

- ・ 20年度の開館時間帯は上表のとおりである。20年度は、人間科学図書館において平日の開館時間の延長（8:45-20:00を8:45-21:00に延長）を試行的に実施した。

< 入館状況 >

平日 8:45～17:00 時間帯の1日あたりの入館者数

	総合・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H20/H19	0.78	0.91	0.96	0.96	1.15	0.82	0.99	1.06	1.06	0.94
H19年度	1268.1	727.2	546.6	274.1	333.5	41.0	221.6	336.9	180.5	425.9
H20年度	993.2	664.7	524.8	262.0	384.9	33.5	218.8	358.4	191.5	399.3

- ・ 上表は、平日 8:45～17:00 の時間帯の1日あたりの入館者数を19年度と比較したものである。
- ・ 館によって増減はあるが、全体としては、前年度に比べて減少している。総合・国際文化学図書館で減少が著しいのは、耐震改修工事に伴う移転作業のための休館の影響と思われる。

< 夜間開館 >

平日夜間時間帯の1日あたりの入館者数

	総合・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H20/H19	1.90	0.87	1.02	0.94	1.22	-	0.99	0.98	1.09	1.08
H19年度	171.1	314.5	276.8	65.7	64.3	-	69.0	72.5	43.8	140.6
H20年度	324.7	274.7	282.5	61.9	78.5	-	68.6	70.7	47.6	151.7

- ・ 館によって増減はあるが、全体としては、前年度に比べて増加している。総合・国際文化学図書館で大きな増加を見たのは、19年度耐震改修工事の関係で激減したのに対し、20年度は改修工事が終了して新装オープンし、利用環境が改善されたことが主な要因と思われる。人間科学図書館における増加は、開館時間の延長によるものと思われる。

<土曜・日祝開館>

土曜・日祝日の1日あたりの入館者数

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H20/H19	0.87	0.85	0.88	0.93	0.76	-	0.99	0.87	0.70	0.83
H19年度	403.8	399.5	268.1	68.0	79.3	-	153.2	134.3	80.1	225.3
H20年度	349.8	339.3	235.2	63.3	60.0	-	151.3	116.8	56.3	187.6

- ・ 19年度と比較すると各館とも減少しているが、これは、「はしか(麻疹)」による全学休校に伴う授業の振替措置(土曜日に実施された補講時における図書館利用)の影響で19年度における利用が一時的に増加していたことが主な要因と思われる。

<24時間開館>

- ・ 前年度に引き続き、医学分館と自然科学系図書館で24時間開館を実施した。利用者数は右表のとおりで、医学分館で増加した。
- ・ 医学分館と比べて自然科学系図書館で利用が少ないのは、自然科学系図書館では、院生以上が雑誌論文の複写のために入館するのが主であるからである。

	自然系	医学
H20/H19	0.90	1.04
H19年度	151	19,814
H20年度	136	20,119

評価と課題

20年度の入館者数は、主に総合・国際文化学図書館の耐震改修工事に伴う移転作業のための休館等の影響により、19年度と比べて全体として4%ほど(約4万7千人)減少した。しかし、その点を勘案すれば、前年度なみの利用があったものと考えられる。

20年度は、人間科学図書館において平日夜間の開館時間の延長(20時までであったのを21時まで延長)を試行したが、21年度から、その分を含む時間外開館経費増額分の一部の経常経費化が実現することとなった。

開館時間の拡大については利用者からの要望も多いが、経費上の問題もあり、実際の各館の利用動向を踏まえた上で、段階的な実現を目指して検討を進める必要がある。

(2) 学生用資料整備

館室別の蔵書数、受入図書冊数、資料費総額等は別添基本統計の通りである。

<資料費予算と重点整備>

- ・ 図書館予算(図書館セグメント)として各館室に配分する経費と、サービス対象部局から拠出された経費(部局セグメントの図書資料費)を合わせて、各館室の学生用資料整備を行う予算構造となっている。
- ・ 20年度は図書館予算として6,300万円(内e-study資料費300万円)規模とし、部局拠出分と合わせて引き続き学生用図書資料の充実を図った。これは19年度と同様に部局拠出分が減少するなかで、学生用図書費の維持を最重点の事項として予算確保し、部局拠出分と合わせ計画的で着実な資料整備を目指すことが認められたことによるものである。
- ・ 18年度より震災文庫資料費(50万円)は独立した予算項目となっている。
- ・ 21年度においても、この資料整備計画は維持され図書館予算としては6,450万円が配分される見込みである。また20年度と同様に高額教育研究基盤図書費(2,000万円)が措置されるため、学生用に研究用を含めた資料費の総額は8,450万円となる予定である。

- ・ 16 年度より実施している装備付納品を、引き続き総合・国際文化学図書館（3,152 冊）、社会科学系図書館（2,147 冊）、自然科学系図書館（1,897 冊）、人間科学図書館（1,111 冊）、保健科学図書室（721 冊）において実施し省力化・合理化を進め、その人的資源を目録遡及入力作業等に投入した。

< 各館室の整備状況 >

H20 受入	総合	国際	社会	自然	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
図書冊数	4,875	672	5,214	3,378	673	2,072	118	1,111	1,388	3,496	22,997
雑誌種数	105	36	69	174	23	160	0	191	116	307	1,181

- ・ 各館室では配分された資料費をもとに関係部局のシラバス掲載図書の購入をはじめ参考図書、授業関連図書等の資料整備を行った。

< 選書体制と収集方針 >

- ・ 16 年度に「学生用資料整備計画大綱」（附属図書館運営委員会決定）に基づき各館室図書委員会にて学生用図書資料の範囲、選定体制・方法等の整備計画の策定を行った。
- ・ 総合図書館では「総合図書館学生用資料整備計画」を策定するとともに学生用資料整備を推進するため「総合図書館資料選定委員会」（構成委員は職員）を立ち上げて具体的な選書スケジュール、選書手順などについて検討し、資料整備を進めた。

< 選書評価 >

- ・ 18 年度から、前年度に整備した学生用図書の利用状況の分析及び収集資料の評価を開始した。

評価と課題

17 年度以降、学生用資料費の図書館予算が大幅に増額され、概ね要求は満たされたものとなっており、引き続き教育・学習活動の支援・拡充を図るために、現行の予算規模を維持する必要がある。

これまで配分予算が不十分であった学生用図書について早急な対応を図るため、重点整備を実施してきた。16 年度においては総合図書館と自然科学系図書館に配分、17 年度は総合図書館と人文系（国際文化学、人文科学、人間科学）の各図書館に配分、18 年度は総合図書館と医学分館、保健科学図書室、海事科学分館に配分、そして 19 年度は、社会科学系図書館に 400 万円、総合図書館に 100 万円（大規模改修が予定されているため、総合図書館分を従来の 400 万円から抑えた額とした）とし、重点配分額全体を従来の 1,000 万円から 500 万円とした。これで全館室の重点配分は一巡することとなり、20 年度からは当面重点配分を行わないこととなった。

19 年度に整備した学生用図書の選定評価を実施した結果、選定が蔵書構成上並びに利用上ほぼ適切に行われたことが実証されている。（附属図書館運営委員会〔平成 20 年度第 4 回開催〕に各館室の選定結果及び評価として資料配付の上報告）

(3) 資料提供サービス

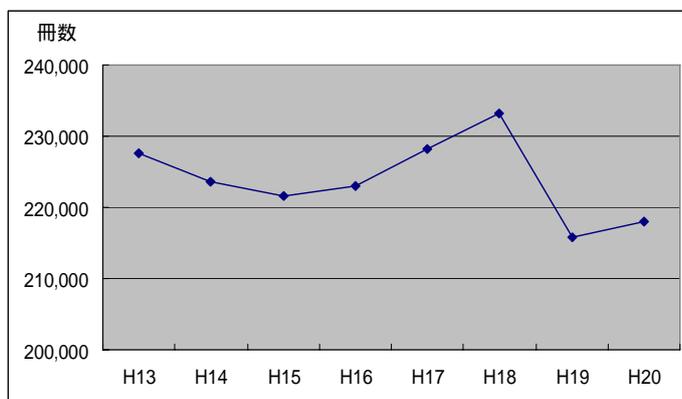
入館者数、貸出冊数等は別添基本統計のとおりである。相互利用サービスについては、3(5)に後述する。

《貸出サービス》

21年3月から、本学卒業生及び修了者に対する図書資料の貸出サービスを実施している。

< 貸出冊数（学生・院生）経年推移 >

13年度から20年度までの図書館全体の貸出冊数の経年推移を右に掲げた。



< 館室別学生・院生貸出冊数 >

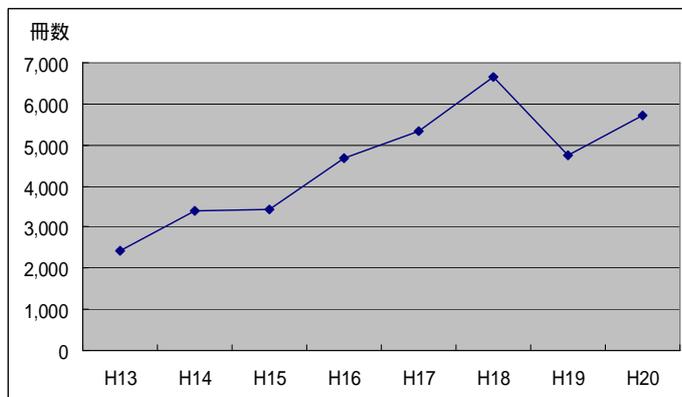
	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H20/H19	0.94	1.04	1.09	0.99	1.10	1.05	1.09	0.91	0.94	1.01
H19年度	54,630	62,743	33,869	14,545	14,991	891	6,666	13,412	13,970	215,717
H20年度	51,248	65,235	37,039	14,456	16,493	934	7,266	12,172	13,096	217,939

- ・ 館によって増減はあるが、全体としては、ほぼ前年度並みの数字となっている。

《デリバリ（図書配送）サービス》

< デリバリサービス貸出冊数推移 >

13年度から20年度までの図書館全体のデリバリサービスによる貸出冊数の経年推移を右に掲げた。



< 館別デリバリ貸出冊数 >

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H20/H19	0.72	1.30	1.29	1.03	1.61	-	1.93	1.40	0.81	1.20
H19年度	1,065	1,162	588	395	1,027	-	105	172	245	4,759
H20年度	764	1,508	758	405	1,649	-	203	240	198	5,725

- ・ 院生以上を対象に12年度からサービスを行い年毎に貸出冊数の増加が続いてきたが、19年度は主に総合・国際文化学図書館の耐震改修工事の影響で大幅に減少した。
- ・ 20年度は、引き続き耐震改修工事の影響を受けた総合・国際文化学図書館と、海事科学分館で大きく減少したが、その他の館で著しい増加が見られたため、全体としては上昇に転じた。

評価と課題

16年度以降順調に伸びてきた学生の貸出冊数が19年度に大幅に減少したのは、主として総合・国際文化学図書館の耐震改修工事の影響によるものであり、20年度も、前年度並みに回復したとはいえ、全体としてその程度の上昇に止まったのは、やはり総合・国際文化学図書館の耐震改修工事が影響しているものと思われる。

21年3月から、本学卒業生及び修了者に対する貸出サービスを開始しているが、貸出サービスの上昇傾向が実態として継続しているか否かの評価は来年度を待たねばならない。

デリバリサービスの19年度の利用減少も同様の理由だが、20年度には上昇に転じた。現在のサービス範囲内においても、デリバリサービスの利用は今後とも増加することが予想される。このため、検討課題であった六甲台キャンパス内デリバリの学部学生への拡大については、それを実施した場合デリバリに係る経費及び職員の業務負担の増加が不可避となるため、当面実施を見合わせる事となった。

なお、図書に貼付されたOCR(資料ID)ラベルに重複するものが存在することが判明し、その解決が喫緊の課題となっているが、20年度は、返却時にOCRラベルをバーコードラベルに貼り替える等の作業を進めた。

(4) 情報リテラシー教育の推進支援

< 情報リテラシー教育支援 >

- ・ 16年度より設けられた全学共通教育必修科目「情報基礎」では、昨年度の2/3コマ(約60分)から1コマ(90分)が「情報の活用：レポート・論文作成のための情報リソース活用法」にあてられ、5月上旬～6月下旬を中心に計24回(補講・再履修を含む)講義(実習を含む)を行った。
- ・ 今年度より情報リテラシー係と各館室のサービス係員から構成される「情報リテラシー教育支援WG」を組織して、課題や「力だめし」なども改訂し、WGメンバーで分担し講義を行った。学部新入生全員に補講受講者等を加え、約2,700人が受講した。
- ・ 従来の図書館ホームページ上のサービス紹介を中心とした内容から、レポート・論文作成の際に役立つ、各種データベースの紹介、所蔵検索OPAC(実習を含む)・各種Webサービス等を中心とする内容に変更した。
- ・ 次年度に向けて、授業内容やテキスト・課題・「力だめし」の再検討も行った。

< オリエンテーション、ガイダンス >

- ・ 情報リテラシー係を中心に情報リテラシー教育支援WGメンバーで以下のガイダンスを開催した。

名称	内容	時期	時間	会場	回数	参加者
留学生オリエンテーション	施設紹介・利用全般	4、10月	5分	六甲ホール	2	440名
館内ツアー 検索ガイダンス	OPACの検索方法 資料入手方法、他	4、5、10月	15～20分	各館室	49	224名
情報の探し方ガイダンス (個々のDBの使い方)	雑誌論文検索方法 「国内編」「海外編」	6、10月中旬	60分	自然科学系図書館	10	56名
情報の探し方ガイダンス (基本的なDBの使い方)	雑誌論文、新聞記事 の検索方法	7月上旬	60分	総合・国際文化学図書館	6	26名
Web of Science 講習会	Web of Science	6月下旬	60分	自然科学系図書館	2	48名
雑誌論文検索方法 「国内編」と「海外編」	CiNii、JDreamII Web of Science、EJ	11月上旬	60分	人間科学図書館	4	46名

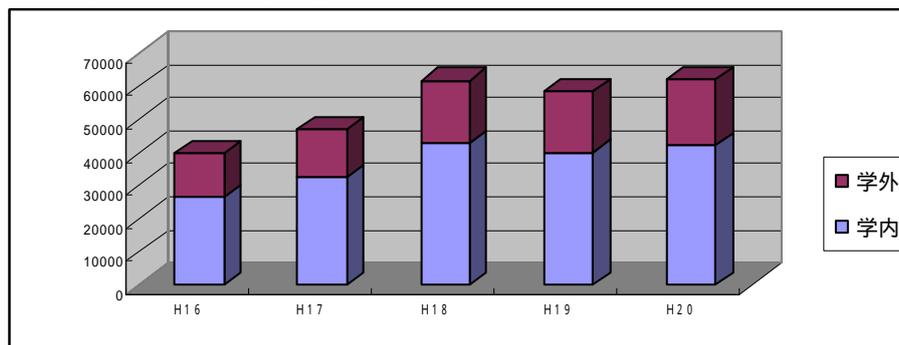
雑誌論文検索方法 「国内編」と「海外編」	Econlit 電子ジャーナル	11月中旬	60分	社会科学系図書館	4	43名
雑誌論文検索方法 「国内編」と「海外編」	医中誌、PubMed、 電子ジャーナル	12月上旬	60分	保健科学図書室	4	42名
SciFinder 講習会	SciFinder	6月	90分	自然科学系図書館	1	26名
オーダーガイダンス	雑誌論文検索方法 「国内編」「海外編」	5、6、10月	60～120 分	人間・社会・海事等	6	128名
日経テレコン説明会 (就活編)	施設紹介・利用全般	6、12月	60分	プレゼンテーション ホール	4	78名

- ・ SciFinder、Web of Science、日経テレコン 21 のガイダンスは、各システムに新しいサービスが加わったためベンダーから専門講師を招いて、対象も教員・院生・学生と幅を広げて実施した。その他は情報リテラシー係職員が講師を務めた。
- ・ 前期の新生を含む利用者ガイダンスは耐震改修工事の影響により、夏休み前に集中的に実施した。実施会場の PC 端末エリア等で、スクリーン・マイクを使用することにより、PC 端末がない場合でも理解しやすいように工夫した。
- ・ 後期には、希望のあった各館室（遠方のキャンパスも含む）で実施し、内容については、今年度よりキャリアセンターとの協力のもと、就職情報収集のための説明会や恒例のレポート・卒業論文作成支援としてのデータベース講習会等を、専門講師を招いて実施しただけでなく、情報リテラシー係主体で、教員からの依頼によるオーダーガイダンスも実施した。
- ・ また、ちらし・ポスターなどに情報リテラシー系のメールアドレスを組み込んだ QR コードを採用するなど、利用者が参加しやすいように工夫した。更に、ホームページの各データベースの項目を目的別に編集し、利用ガイドを作成するなどアクセシビリティの向上にも努めた。

< 図書館ホームページの維持・更新 >

- ・ 月平均アクセスは約 62,300 件となっている（月別アクセス数は別添統計【p40】の通り）。
- ・ 電子図書館システムのリプレースに合わせて、昨年度末に図書館ホームページがリニューアルされ、訪問者が求める情報に効率的に導けるよう、ユーザーインターフェースの向上を図った。
- ・ Web からの各種申込やガイダンスに関する認知度を上げるため、利用案内の内容を充実させ、ガイダンス情報の中に Web サービスを盛り込み、データベース情報には詳細情報 / 利用ガイドの頁を追加する等の改良を行った。加えて、学術情報資源へのアクセスの利便性を高めるために、『リンクリゾルバ』（「データベース等の論文情報から電子ジャーナル等の本文への直接アクセス」、「オンライン蔵書目録（OPAC）等へのリンク」及び「文献複写申込みまでの学術情報入手」の一連の流れを統合的にナビゲートするツール）を導入し、学術情報環境の整備を図った。
- ・ ガイダンスに際して作成した資料をホームページに順次アップした。また、各種情報のメンテナンス及び新着事項の掲載等を引き続き行った。

図書館トップページ月平均アクセス数



評価と課題

必修科目「情報基礎」は5年目に入り、滞りなく運営できた。「情報の探し方」等のガイダンスに積極的に参加する利用者はある程度限定されるので、新入生全員を対象とした必修授業において図書館が果たすべき教育支援への効果は大きい。今年度から、「情報の活用：レポート・論文作成のための情報リソース活用法」と図書館サービスとを合わせて説明の時間が従来の60分から1コマ90分に拡大されたことによって、新入生がより充実した内容の授業を受けることが可能となり、授業後のアンケートにもその成果が窺えた。理学部化学科では3年次必修授業において、ガイダンスを毎年行っている。このように卒業までの履修・学習全体を通じた情報リテラシー教育支援のあるべき姿を考えることが必要であろう。

「情報の探し方」等のガイダンスについては、会期・運営方法・広報に試行錯誤を重ね、前・後期合わせて一定の参加者増があったが、これは新たな試みとして、申込を携帯からも可能にするためQRコードを広報に採用したこと、また、キャリアセンターとの協力のもと就職活動の支援として、企業関連の検索説明会を専門講師により開催したことによると思われる。中には非常に熱心な受講者も見られ、また少しずつではあるがオーダーガイダンスも認識されて来ており、今後も継続していく意義があると考えられる。ただ、全学生数から見れば参加者はまだ少なく、広報等においてさらなる改善が必要である。

図書館ホームページについては、昨年の改訂から1年経ち更にサービスの認知度向上をめざしてトップページメニューを見直した。加えて、各館室情報の構成の統一と充実を図り、リンク集の整備等も行った。

今年度リンクリゾルバが導入され電子ジャーナルリストが一新されたことで、閲覧可能タイトルが昨年度より約1000タイトル増加し、その効果もあるのか、トップページのアクセス数も増加した。しかし英語版ページの充実など、まだ課題は残っている。

(5) 設備・機器の整備

施設面の整備については、5(4)で記述することとし、本章では学習環境改善のための設備・機器に絞った整備について記述する。

< 設備更新による学習環境の整備 >

- ・ 建物改修が行われた館室以外の整備で、特に学習支援に直接係わる事項として次のものがある。

社会科学系図書館	大閲覧室空調設備設置及び照明器具更新
医学分館	24時間開館管理システム用スキャナ及びパソコン更新
保健科学図書室	書架の増設、修士論文用保管庫の設置

< 自動貸出装置等 >

- ・平成 20 年度においては、人文科学図書館において更新を行った。

利用者のセルフサービスを支援する機器類の導入状況は次のとおりである。

自動貸出装置	研究所を除く各館室
BDS (無断持出防止装置)	研究所を除く各館室
24 時間入退館システム	自然科学系図書館、医学分館
セルフコピー (コイン式等)	研究所を除く各館室

< 情報機器の更新 >

- ・OPAC 等検索用端末 (*3) の更新及び追加を行った。
- ・利用者用 PC 等の設置台数は次の通りである。

	総・国	社会	自然	人文	人間	医学	保健	海事	研究所	合計
PC 台数	48	45	40	17	17	16	12	12	3	210
(*1)	(25)	(15)	(20)	(10)	(10)	(7)	(7)	(5)	(0)	(99)
(*2)	(12)	(11)	(12)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(0)	(50)
一部サイト(*3)	(9)	(15)	(8)	(4)	(4)	(5)	(2)	(3)	(3)	(53)
スタンドアロン等	(2)	(4)	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)	(1)	(0)	(8)
情報コンセント	80	21	12	10	9	30	4	8	0	174

* (*1) 99 台は電子図書館システムのリース品

* (*2) 50 台は学術情報基盤センター教育研究用計算機システムのリース品

* (*3) は、OPAC に加えて限定された検索サイト (国会図書館等) がアクセス可能なもの

評価と課題

昨年度から引き続き、利用者用 PC 環境の整備と維持に努めた。また、21 年度に学内ネットワークが更新されることに伴い、利用環境の再整備を実施し、利便性を向上する必要がある。

3. 学術研究支援

(1) 研究用資料の整備

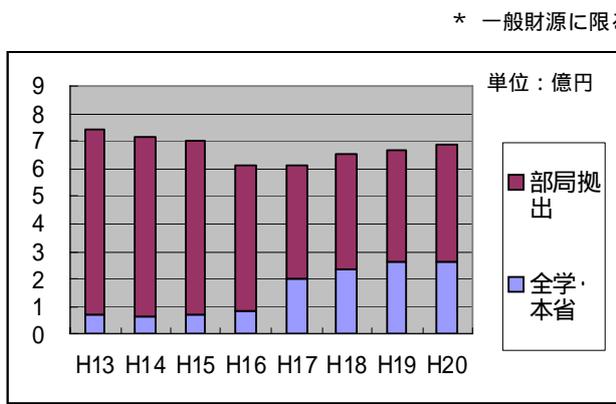
各館室の蔵書数、受入図書冊数、資料費等は別添統計【p38】の通りである。

< 資料受入状況 >

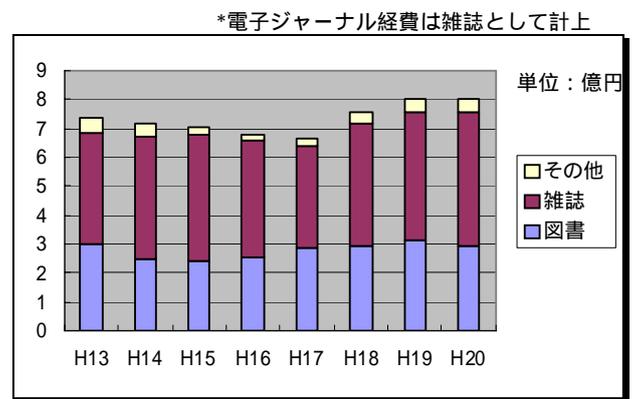
* 15年度まで館室によって学習用・研究用を分けがたい場合が多いため、総計の経年推移を示す。

注) 下記統計数値は、神戸商船大学、経済経営研究所など当時図書館組織外だった館の数値も合算した値

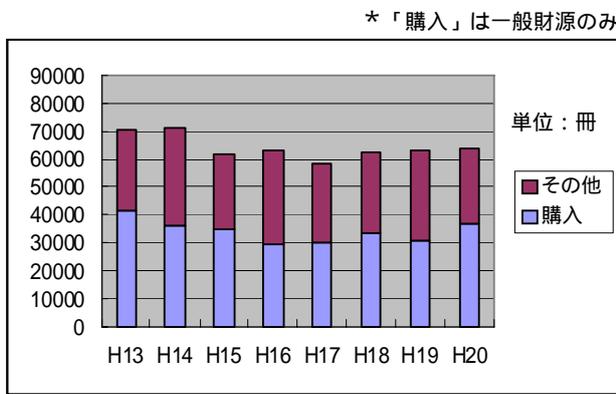
(図1) < 資料費経年推移 >



(図2) < 資料費の用途別内訳推移 >

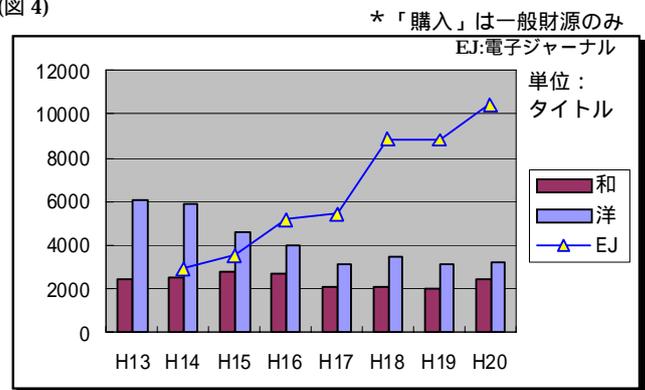


(図3) < 受入図書冊数経年推移 >



< 購入雑誌数経年推移 >

(図4)



- 資料費（一般財源）は、平成17年度以降の学生用図書費の増額と、19年度から3年間の期限で予算措置された教育研究基盤資料整備費（3億円を上限とする）により増加傾向にあり、総額で見れば、平成15年度水準まで回復しつつある。（図1）
- 図書資料費は、教育研究基盤資料整備費の一部として高額教育研究基盤図書費（2,000万円）が今年度も継続して配分された。その結果、雑誌資料費とも、昨年並の水準を保っている。（図2）
- 受入図書冊数は、ほぼ昨年と同様であるが、購入（一般財源）による冊数は増加し、平成13年度に次ぐ値となっている。（図3）
- 和雑誌の購入タイトル数は、昨年に比べて増加傾向にある。また、洋雑誌に関しては、19年度に電子オンリー中心の包括利用契約に変更したため、冊子体の購入タイトル数の大幅な増加は今後も望めないであろう。その反面、学内で利用可能な電子ジャーナル数は増加を続け、ついに20

年度に1万タイトルを越え、学術雑誌情報リソースとして必要不可欠なものとなっている。(図4)

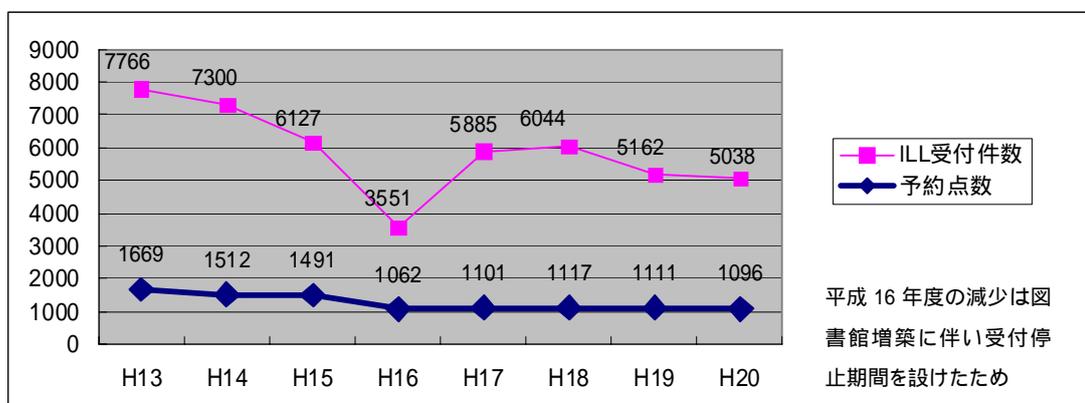
<大型図書>

- ・ 人文・社会科学系分野において、教員・講座単位では、高額な図書の購入が困難であることが懸案事項になっていたが、昨年度に続き20年度も高額教育研究基盤図書費が2,000万円の枠で措置されることになり、1件10万円以上500万円以下の高額図書計19点を整備することが出来、全学共同利用に供した。

<外国雑誌センター館>

- ・ 昭和61年度より「人文・社会科学系外国雑誌センター館」の指定を受け、国内に所蔵の少ない外国雑誌を体系的に収集し、全国共同利用に供している(配架は社会科学系図書館)。分野別の外国雑誌センター館は全国で計9大学に設置され、人文・社会科学系は一橋大学と神戸大学の2大学に設置され、分担収集を行っている。
- ・ 外国雑誌センター館本来の趣旨に鑑み、国内所蔵希少雑誌として選定後、所蔵大学が4館以上となった雑誌を中止し、その分新規雑誌を追加した結果、20年度予約点数は1,096誌となった。
- ・ ILL複写サービスについては、20年度も一部作業の外部委託を継続し、年間を通じ安定したサービスを提供する体制を維持することが出来た。これにより、他大学等からの複写依頼を常時受け付け、遅くとも受付翌日には発送する外国雑誌センター館としてのサービス体制を保っている。

<予約点数とILL受付件数(社会科学系)の推移>



評価と課題

予算の減少に伴う図書購入費の外部資金へのシフトは、減少分を補填する意義はあるが、科学研究費等の購入図書は当該教員(または教員集団)の利用が原則となることから、社会科学系図書館を典型とする関連分野の専門図書館室に資料を集中し、共同利用するというこれまでの考え方に大きな影響を与えている。

外国雑誌の契約形態を、冊子体を主とする契約から電子オンリーを主とする契約に変更した。また、それらの購入経費は『全学共通経費分』及び『部局負担分』からなる「教育研究基盤資料整備費」を主な原資としており、その一部で「高額教育研究基盤図書費」も措置し、全学的なインフラとしての資料整備を着実に進めている。

しかしながら、22年度から始まる次期中期計画においては、当初2年間「教育研究基盤資料整備費」の原資は、『全学共通経費』及び『外部資金に関わる間接経費(全学共通分)』になり、部局経費による

整備が可能となるため「高額教育研究基盤図書費」は、対象外となることが決定している。22年度以降も、部局経費による高額図書の継続整備が望まれるものである。

(2) 電子の情報基盤の整備

<外国雑誌と電子ジャーナル>

有料で導入している主な電子ジャーナルは次の通りである。

	分野	導入年	誌数	範囲	備考
Elsevier 社 ScienceDirect	全分野	H14	2,010	1995 ~	コンソーシアム契約によるフリーダムコレクション 講読規模維持が条件
Springer 社 SpringerLINK	多分野	H14	1,342	創刊号 ~	発行のほぼ全タイトル 講読規模維持が条件
Wiley 社 InterScience	多分野	H14	577	1996 前後 ~	発行のほぼ全タイトル 講読規模維持が条件
Blackwell 社 Synergy	多分野	H14	937	1998 前後 ~	発行のほぼ全タイトル 講読規模維持が条件 H18 より HSS のみから STM を加えて Full Collection に変更
JSTOR	自然科学 及び社会科学	H14	1,103	創刊号 ~ (最近 3 ~ 5 年は対象外)	Arts & Sciences (H14 ~ 174 誌) Arts & Sciences I (H17 ~ 190 誌) Arts & Sciences II (19.3 ~ 221 誌) Arts & Sciences IV(H18.3 ~ 154 誌) Health & General Sciences(H15 ~ 35 誌) Science 等が創刊号より利用可能
Nature 社	自然科学	H15	27	1987 ~	Nature 本誌以外は初号から
AAAS Science Online	自然科学	H15	1	過去 5 年	
IEEE CSLSP-e	情報通信	H15	26	1988 ~	会議録約 2500 冊も利用可能
ACM Portal	情報通信	H15	31	ほぼ創刊号 ~	会議録等も利用可能
APS	物理系	H16	8	2001 ~	米国物理学会。 *H16 よりライセンス料要 (以前から利用可能)
Cell Press	生命科学	H16	8	1996 ~	Elsevier 傘下に (ScienceDirect で利用)
LWW via Ovid	医学臨床	H16	100	1996 ~	
ACS	化学系	H16	34	1996 ~	米国化学会
Oxford University Press	多分野	H17	166	創刊号 ~	発行のほぼ全タイトル 講読規模維持が条件
Cambridge University Press	多分野	H18	223	1999 前後 ~	発行のほぼ全タイトル 講読規模維持が条件

- ・ その他、無料による提供や冊子体講読により利用できるもの等も加え、20年度当初の電子ジャーナル利用可能数は、約 10,500 タイトルとなった。
- ・ 総体としては非常によく利用されており、今や必須の教育研究基盤資料となっている。

- ・ 外国雑誌については、19 年分から下記のように大幅な方針変更を行った。

附属図書館審議会答申「教育研究支援強化のための諸施策の具体化について . 教育研究基盤資料の維持・整備方策(18年3月9日)」により、部局拠出経費を加味した全学経費を投入する方針が示され、世界レベルの研究水準を目指す本学の学術情報基盤として重要な電子ジャーナルを含む外国雑誌の維持・整備を図る方向性が定まった。

この答申を受け、2007 年から大手出版社の電子ジャーナルの導入については、従来の冊子体を維持する方法から、電子ジャーナルの利用に当たって冊子体を維持する必要がない電子オンリー中心の包括利用の契約方法に大幅に変更した。

具体的には次のようになった。

(1) 電子オンリー中心の包括利用契約への移行

大手5社(Elsevier社、Wiley社、Springer社、Blackwell社、Oxford社)発行のものについては、各社発行電子ジャーナル全タイトルが利用できる電子オンリー中心の包括利用契約に移行し、その対象となる冊子体の購読はオプションとなり、電子ジャーナルを維持するため購読を維持する必要はなくなった。

なお、冊子体の購読を希望する場合は、購読額の10%~25%程度の特別価格で購読できるが、これに関しては、30%の雑誌購読補填は行わない。

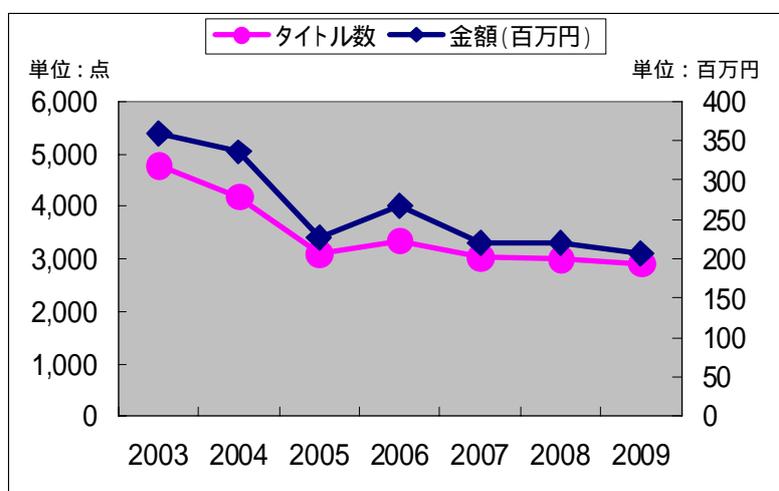
(2) 上記以外の外国雑誌購読に係る経費補填

冊子体を各図書館室に配置し、全学共同利用が可能なものについては、全学経費から、当該雑誌購読所要額の30%を補填する。

- ・ この結果、2007 年の外国雑誌は、契約点数・契約金額とも大幅な減少となったが、2008 年は若干減少し、2009 年も引き続き、契約点数・契約金額が漸減している。

2008 年契約点数	3,009 点	2009 年	2,913 点	(3.2%減)
2008 年契約金額	約 220 百万円	2009 年	約 207 百万円	(5.9%減)

< 外国雑誌購読推移 >



<データベースの整備>

主な導入データベースは次の通りである。

	分野等	導入	範囲	形態	備考
Web of Science SCIE	自然科学 (引用索引)	H15	1996～	Web	H15.11 から導入
JCR Web	全分野	H17		Web	H17.4 から新規導入
MathSciNet	数学	H13	1940～	Web	
SciFinder Scholar	化学	H16	1840～	Web	H16.11 から新規導入
Readers Guide to Periodical Literature	一般雑誌	H6	1983～	Web	H18.4 より ERL での提供から Web 版に変更 同時アクセス 1
Business Periodicals Index	経営学	H3	1982～	Web	同上 同時アクセス 1
EconLit	経済学	H3	1969～	Web	同上 同時アクセス 4
Index to Legal Periodicals & Books	法学	H3	1981～	Web	同上 同時アクセス 1
CiNii	多分野	H15	多種	Web	機関別定額制
聞蔵Ⅱ ビジュアル(朝日新聞)	新聞記事	H12	1945～	Web	同時アクセス 3
医学中央雑誌	医学	H5	1983～	Web	Web 版は H14 から 医学・保健にサービス
JapanKnowledge	全分野 (辞典等)	H17		Web	H17.6 から新規導入 同時アクセス 5
官報	官報記事	H18	1947.5～	Web	H18.4 から新規導入 同時アクセス 2
日経テレコン21	新聞記事等	H18	1975～	Web	H18.7 から新規導入 H19.7 より全学利用可
MAGAZINEPLUS	国内雑誌記事	H18	1945～	Web	H18.8 から新規導入 同時アクセス 3
理科年表プレミアム (H21.3 月で中止)	自然科学	H18	1925～	Web	H18.9 から新規導入
J-DreamII	科学技術・医学・薬学	H19		Web	H19.6 から新規導入 同時アクセス 8

- ・ 15 年度途中に導入した引用索引データベース Web of Science SCIE (自然科学系) は、18 年度までは間接経費、19～20 年度は教育研究基盤資料整備費で契約を維持した。
- ・ 16 年 11 月より、化学分野の基本データベースである SciFinder Scholar を導入した。導入にあたっては関係部局の研究者にアンケート調査を行ったうえ、受益者負担を求めることとした。経費の問題から、「同時アクセス数 1」の契約となっている。
- ・ 18 年度より、日経テレコン 21 と MAGAZINEPLUS, 理科年表プレミアム, 官報を新たに導入したが、利用統計状況から、21 年 3 月で理科年表プレミアムを中止することを決定した。
- ・ 19 年 6 月より科学技術文献情報の文献データベース J-DreamII を新たに導入した。
- ・ 各データベースの利用は別添統計の通りである。データベースにより、利用度合は大きく異なっている。

評価と課題

電子ジャーナルは研究者（大学院生を含む）にとって、不可欠な学術情報基盤環境となっている。19年度から3年間は、附属図書館審議会答申「教育研究支援強化のための諸施策の具体化について 教育研究基盤資料の維持・整備方策（平成18年3月9日）」により、部局拠出経費を加味した全学経費を投入し、電子ジャーナルを含む外国雑誌及び各種データベース等の維持・整備を図ることが出来た。

今回、前の答申を踏まえ22年度からの次期中期計画における新たな維持・整備方策について、附属図書館審議会で検討し、答申案をまとめ、学長に答申した。これにより、22年度から2年間の維持・整備方策は方向性が定まった。なお、24年度以降の維持・整備方策については、22年度に全学的に検討することとされた。

（3）蔵書目録データベースの整備

<目録遡及入力事業>

- 目録遡及入力は学内予算措置を得て4年度から18年度まで3次にわたる5ヵ年計画、続く19年度以降も継続的に進められており、今年度で17年目になる。この間国立情報学研究所との共同事業等にも参加し、これまでに約116万冊の遡及入力を達成した。医学分館、保健科学図書室、海事科学分館の3館室については館室配置図書の入力がほぼ終わり、現在全蔵書の約74%がOPACで検索できるようになっている。

・20年度計画と経費

外部資金を獲得できなかったため、学内予算措置と日常業務を合わせて例年より少なめの27,000冊を入力目標とした。

電子図書館事業経費（650万円） 17,000冊

館員入力 10,000冊

・20年度入力実績 80,604冊

外部委託	社会科学系図書館	中国語図書	1,420冊
	総合・国際文化学図書館	旧姫路分館蔵書（和洋書）	7,654冊
		中国語図書	1,501冊
	経済経営研究所図書館	書庫内和書	8,000冊
		オセアニア文庫（洋書）	500冊
自然科学系図書館	旧工学部図書 （主に研究室戻り）	5,600冊	
館員入力	各館室	研究室戻り等	55,929冊

* 総合・国際文化学図書館、経済経営研究所図書館の書庫内一般図書の入力がほぼ終わり、一般書は概ねOPACで検索できるようになった。

* 業務システムの多言語対応の遅れから入力が保留されていた中国語図書の入力にとりかかり、社会科学系図書館でほぼ完了した。

評価と課題

今年度は館員の努力による日常入力数が大幅に増加したため、例年より少なめに設定していた目標数を大きく上回り、例年並みの入力数を達成することができた。

未入力総冊数は約92万冊で全蔵書の約26%にあたる。このうち館室配置図書については、今年度か

ら着手した中国語図書の入力をできる限り早期に完了させることが当面の目標となる。それに加え、和・洋古書、漢籍類など入力に専門知識が必要な重要資料がまだ多数残されており、利用者へのサービス向上、蔵書の利用促進のためにも、経費や時間がこれまで以上にかかると予想されるが、引き続き入力を推進する必要がある。

また、数量的に大きな割合を占める製本雑誌(約40万冊)と研究室備付図書(1989年以前受入)は、今年度「資産および目録情報データベース整備ワーキンググループ」の活動として、製本雑誌については簡易データを利用した試験的登録、研究室備付図書については一部簡易データとしての登録を行った。資産管理・利用の両面から、これらの入力計画を今後どのように進めるか検討していかなければならないであろう。

20年度末現在 各館未入力状況

	未入力(概数)	主な未入力図書
総合・国際文化学図書館	113,000	露語図書、中国語図書、漢籍、和古書、研究室備付図書
社会科学系図書館	118,000	統計書、漢籍、洋古書、和古書、研究室備付図書
自然科学系図書館	110,000	旧兵庫農科大学蔵書、研究室備付図書
人文科学図書館	49,000	中国語図書、漢籍、和古書、研究室備付図書
人間科学図書館	50,000	旧姫路師範・兵庫師範・明石分校等蔵書、研究室備付図書
医学分館	21,000	研究室備付図書
保健科学図書室	1,000	
海事科学分館	1,000	
経済経営研究所図書館	55,000	アメリカ文庫、リエゾンセンター、研究室備付図書
合計	518,000	未入力数に製本雑誌は含まれていない

(4) 資料の保存

< 貴重資料の保存 >

- ・ マイクロフィルムの劣化対策として、昨年に引き続き所蔵するマイクロフィルム 182 リール(経済経営研究所図書館所蔵)の複製を行った。
- ・ 社会科学系図書館の稀覯本 2 冊の修復補修を実施した。
- ・ 社会科学系図書館の貴重新聞保存箱を 59 箱作成し、戦前の貴重な新聞を保存することにした。

< 一般資料の保存 >

- ・ 18 年度に附属図書館運営委員会において「今後の資料収容力確保の具体策について」が審議・了承され、それに基づき本年度は「重複資料調整作業 WG」を職員で組織し、逐次刊行物について重複状況の基礎調査を改訂し、重複雑誌の保管責任館の 1 次案を完成するとともに、重複雑誌の整理について基本的な手順を作成した。

< 一般資料の廃棄 >

- ・ 自然科学系図書館、医学分館及び海事科学分館において、製本雑誌を中心に 12,439 冊の資料の廃棄を行なった。

評価と課題

マイクロ資料については、緊急に必要とされる保全措置を行うことが出来た。和装本についても一定の保存処理が出来た。これらについては今後とも継続的に実施することが必要である。

資料収容力確保の具体策について、保管責任館を具体的に決定したので、保管責任館以外の館室で実際に廃棄処理を行ない、資料収容力確保に結びつけることが次年度以降の課題となる。

(5) その他の研究支援サービス

< 相互利用サービス >

区分		総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計	
複写	受付	H20/H19	2.52	0.98	0.88	1.34	1.08	1.06	1.00	0.70	0.93	0.99
		H19 年度	120	5,162	2,192	844	656	430	1,849	773	524	12,550
		H20 年度	302	5,038	1,937	1,133	709	457	1,841	541	486	12,444
	依頼	H20/H19	0.96	1.00	0.85	0.85	0.90	36.50	1.21	1.39	0.95	1.05
		H19 年度	683	895	1,521	1,231	1,844	2	1,797	1,713	164	9,850
		H20 年度	655	896	1,289	1,046	1,658	73	2,179	2,388	156	10,340
貸借	受付	H20/H19	2.48	1.15	1.01	1.15	0.94	1.31	1.29	0.86	1.02	1.17
		H19 年度	100	1,446	195	445	199	35	14	22	126	2,582
		H20 年度	248	1,665	197	511	187	46	18	19	128	3,019
	依頼	H20/H19	1.21	1.16	0.90	0.92	0.89	1.33	0.78	0.75	0.60	0.99
		H19 年度	273	404	173	842	398	3	18	53	10	2,174
		H20 年度	331	467	155	775	354	4	14	40	6	2,146

- ・ 館によって増減はあるが、全体としては、現物貸借の受付が増加した以外は、文献複写の受付、依頼、及び現物貸借の依頼とも、ほぼ前年度並みとなっている。
- ・ 現物貸借の受付の増加は、目録情報の遡及入力が進展が背景にあると考えられる。

評価と課題

電子ジャーナルの普及等に伴い文献複写は減少傾向にあったが、ここに来て下げ止まりといった感がある。それを確かめるには今後の文献複写利用の推移を見守る必要があるが、いずれにせよ、受付、依頼ともに1万件前後の利用があり、利用者ニーズを満たす上で、他大学との協力関係は不可欠である。

文献の迅速な提供体制構築のため、20年度から電子的文献送達システム（DDS：ドキュメント・デリバリー・システム）を、各館に設置している複写機のスキャナ機能を活用する方法に変更し、全館室で実施した。

また、19年12月の韓国海洋大学校図書館との図書館間協力協定に基づいて、20年度から資料交換の手続きを開始した。

4. 社会連携・情報発信

(1) 一般市民への資料提供サービス

< 一般市民の図書館利用 >

- ・17年度から、総合・国際文化学図書館と海事科学分館において一般市民への貸出サービスを実施している。
- ・19年度と比べ、両館とも貸出冊数が大きく増加したが、総合・国際文化学図書館で3倍以上に急増しているのは、19年度耐震改修工事の関係で激減したのに対し、20年度は改修工事が終了して新装オープンし、利用環境が改善されたことによるものと思われる。

	総合・国際	海事分館
H19年度	119	361
H20年度	404	474

< 展示会の開催 >

- ・第3回常設展
- ・2008年9月26日(金)～12月19日(金)
- ・神戸から新天地へ - ブラジル移民の100年 -
- ・前年度に引き続き、第3回神戸大学ホームカミングデー(9月27日(土)実施)に合わせて第3回常設展を企画実施した。
- ・2008年が神戸港からブラジル移民が始まった100年目にあたることから、それをテーマとして、社会科学系図書館2階の連絡通路常設展示コーナーを会場として開催した。
- ・学内各部署、近畿地区各大学、及び近隣の生涯学習施設(図書館等)へチラシ、ポスターを送付して広報した。
- ・図書館ホームページに展示品目録等を公開している。

第3回常設展
主催 神戸大学附属図書館

- ブラジル移民の100年 -

神戸から新天地へ

平成20年9月26日(金)～12月19日(金)
月曜日から金曜日、10時～17時まで 入場無料
会場：社会科学系図書館2階 展示コーナー

「...日本国民の発展すべき素地に非ずして何ぞや吾人の益に素地とは他なし伯利西爾の南部四州則ち是なり」
新聞記事文庫より

住所：神戸市灘区六甲台町2-1 (〒657-8501)
交通：阪神御影・JR六甲道・阪急六甲の各駅より
市バス36系統 神大正門前下車約5分
問い合わせ先：情報リテラシー係
電話：078-803-5313
e-mail: literacy@lib.kobe-u.ac.jp

< 公共図書館との協力 >

- ・前年度に引き続き、兵庫県大学図書館協議会で加盟館の図書館相互協力便覧や一般市民への公開状況を取りまとめ、同協議会ホームページ上で情報公開するとともに、県立図書館を通じて県内公立図書館への情報提供を行った。また、兵庫県大学図書館協議会として全国図書館大会兵庫大会に協力した。
- ・兵庫県立図書館で公開されている兵庫県内図書館横断検索に参加し、県内公共図書館等との横断的な所蔵検索が可能となった。

評価と課題

一般市民への資料の貸出サービスは、地域住民への生涯学習支援として有意義な活動の一つである。また、展示会による所蔵資料の一般公開も、図書館の公開サービスの重要な柱の一つである。

公共図書館との連携協力の強化とともに、一般市民への貸出サービスの拡充、展示会等による所蔵資料

の積極的な公開等を通じて、更に地域社会との連携強化及び地域貢献の促進を図る必要がある。

(2) 震災文庫

< 資料収集と一般公開 >

- ・ 引き続き、様々なチャンネルから情報収集を行い、購入や寄贈依頼等の積極的な収集活動により関連資料の網羅的収集に努めた。1,365点（19年度は1,126点）収集し、資料所蔵総数は4万4千件を超えた。

	全点数 (タイトル数)	H20 新着		全点数 (タイトル数)	H20 新着
図書資料	6,504 (5,742)	210 (174)	地図資料	132 (126)	0 (0)
雑誌資料	12,295 (3,025)	115 (11)	動画資料	254 (211)	6 (6)
新聞・広報誌資料	13,600 (2,980)	790 (690)	音声資料	91 (71)	8 (3)
パンフレット資料	5,471 (5,423)	177 (176)	コンピュータ資料	83 (82)	3 (3)
一枚もの資料	5,906 (5,906)	54 (54)	www	7 (1)	0 (0)
写真資料	88 (86)	2 (2)	総合計	44,431 (23,653)	1,365 (1,119)

注) 雑誌等の各号を1冊ずつ数えた数が「点」(件)、同一タイトルを1と数えたのが「タイトル」。
写真資料はコレクション単位(概ね撮影者単位)を1としているため、点数が少ないが、写真2万枚強のコレクションも含まれている。

< 震災デジタルアーカイブ >

- ・ 資料全体のタイトル等だけでなく、掲載されている記事情報等からも検索できるよう、詳細なメタデータを継続的に作成している。本年度は、約4,500件を入力し、その結果、メタデータベースのレコード総数は約25万件となった。
- ・ 震災関係図書資料について、著作権許諾の得られた6冊(前年15冊)をデジタル化し公開した。
- ・ チラシ等一枚もの資料や雑誌論文のうち著作権許諾の得られた18点(前年71点)をデジタル化し公開した。
- ・ 各機関から、防災資料作成等のための一次資料使用問い合わせが、写真を中心に50件程あり、著作権者へ許諾確認を行い回答した。
- ・ 人と防災未来センターとの間で資料の横断検索システムを構築・公開した(2009年1月公開)。両館あわせて約7万点の資料が検索できるデータベースとなった。

< 講演 >

- ・ 2008年7月の専門図書館協議会全国研究集会第5分科会「アーカイブズの現状と今後」、9月の全国図書館大会兵庫大会第9分科会「資料保存」に職員それぞれ1名を派遣し、震災文庫の取組について報告した。
- ・ 2009年2月に人と防災未来センターで行われた「第9回阪神・淡路大震災資料の保存・活用に関する研究会」に職員2名を派遣し、震災資料横断検索の構築に関する報告を行った。

評価と課題

震災文庫が特色ある図書館事業として評価を得ていることは、震災デジタルアーカイブの一次資料使用問い合わせや講演依頼が継続的にあることから分かる。その一方、震災後 10 年以上経過した現在、文庫設立当初の目的である震災の記録としての資料の収集点数は減少傾向にある。今後は震災文庫を活用した研究成果の収集なども検討して行きたい。

15 年 10 月の新館への移転以降、震災文庫は利用者の来室時のみ職員が開室するという体制で運用されていたが、今年度から常駐人員 1 名を置いている。

資料の電子化に関する著作権許諾申請および、震災デジタルアーカイブの一次資料使用問い合わせに対する著作権者への許諾仲介（今年度約 50 件）を行っているが、著作権者により条件の違いがあることや、連絡方法が多岐にわたることから煩雑な作業となっている。

震災関係資料のより有効な活用を図るためには、地域関連機関との連携を強化し、一体として資料提供ができる仕組みを構築する必要がある。この点で、本学人文学研究科地域連携センターの提案を受けて、震災資料を所蔵する他機関との関係構築を検討した結果、今年度の実現した人と防災未来センターとの震災資料横断検索は一定の役割が期待できるものである。今後はこのデータベースを利用して両機関をはじめ震災資料を持つ機関同士の情報交換に役立てたい。

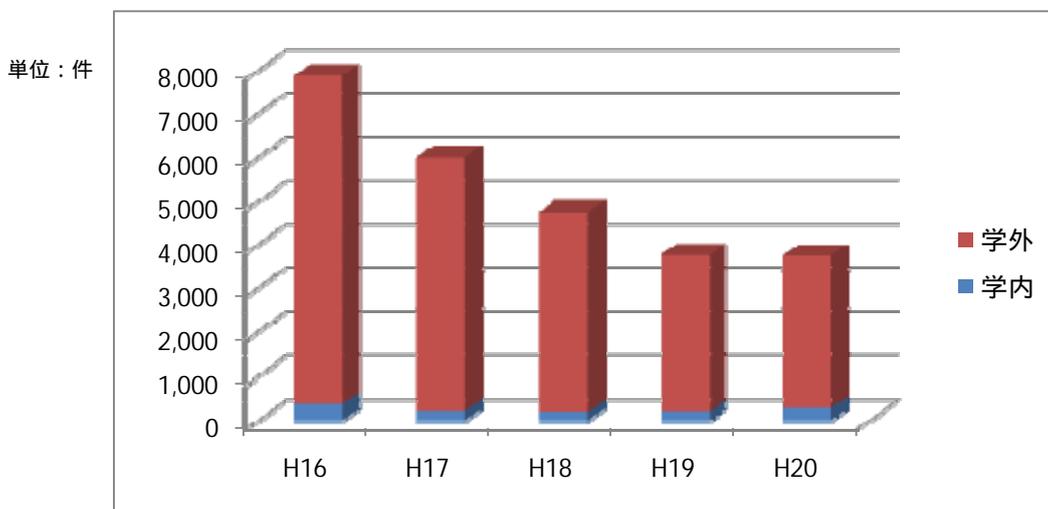
(3) 電子図書館システムによる情報発信

コンテンツのうち震災関係資料については、前節で述べた。

<「神戸大学電子図書館システム」によるデジタルアーカイブ構築>

- ・同システムは当初全国 5 大学に「先導的電子図書館プロジェクト」として予算措置されたもので、本学には H10 年度補正予算で措置され、11 年から稼働している。法人化後は電子図書館事業費として学内経費化され、運営を続けている。
- ・「震災関係資料」、「経済関係資料」、「学内研究成果」を 3 本柱に事業を推進し、デジタル化した資料を Web 上で公開してきた。経費には上記の電子図書館事業費と、科学研究費補助金研究成果公開促進費（H11～15 震災デジタルアーカイブに措置、H16～戦前期新聞経済記事文庫に措置）を充ててきた。

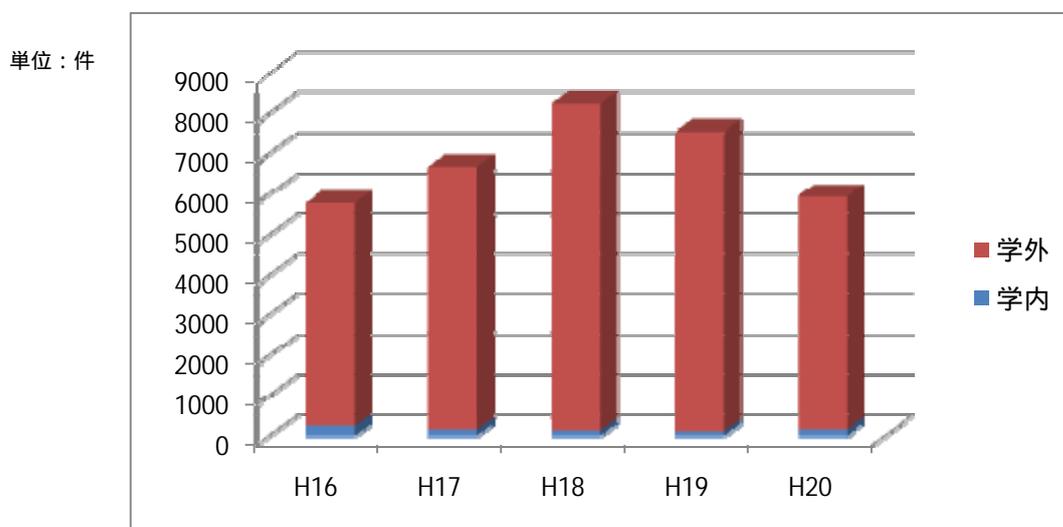
<震災文庫トップページ月平均アクセス数推移>



< 経済関係資料デジタル化 1 >

- ・ 新聞記事文庫（戦前期記事切抜）デジタル化については、昨年につき科学研究費補助金研究成果公開促進費（「戦前期新聞経済記事文庫データベース」）を獲得した（配分額 1250 万円）。「経済政策」「財政」分野など約 17,000 記事を全文テキスト化した（累計約 22 万記事）。このデジタル化の完成を目指すため、H21 年度以降の新たな 5 カ年計画として科研費交付を申請した（H21 年 4 月内定）。また国立国会図書館デジタルアーカイブポータル PORTA に登録され、その検索対象アーカイブとなった（11 月）。これにより利用法・利用数の拡大が期待される。

< 新聞記事文庫トップページ月平均アクセス数推移 >



< 経済関係資料デジタル化 2 >

- ・ 住田文庫から「象志」ほか計 8 点をデジタル化し公開した。
- ・ H18 年度近代化産業遺産（経産省）認定資料『総業中松方社長對職工側委員會見録並営業時間及賃銀改正二關スル顛末』の電子化公開を行った。
- ・ 「上海週報」17 年分（1913-1935(欠あり)）、「鈴木商報」7 年分（1910-1916）、「経済週報」3 年分（1923-1925）を電子化し、またこれらのウェブ公開に向けて権利関係を調査中である。

< 学内研究成果資料デジタル化 >

- ・ 機関リポジトリが公開 3 年目を迎えた。21 年 3 月末現在 8,992 件（前年度末 7,209 件）の学術成果を一般公開している。
- ・ キク科の染色体数データベース（渡邊邦秋名誉教授作成）のデータ更新を続けている。
- ・ 引き続き学内研究成果メタデータ（書誌情報）として、紀要類記事情報（3,058 件入力、累積 35,033 件）科学費成果報告情報（151 件入力、累積 2,171 件）博士学位論文情報（716 件入力、累積 7,553 件）の入力を進めた。博士学位論文要旨については、今年度より冊子体の要旨集を廃し、電子図書館での公開のみとした（今年度分 479 件電子化公開）。また過去の要旨集のうち 54-55 集（675 件）を電子化した。今後もこの電子化は継続予定である。

評価と課題

新聞記事はその規模の大きさと希少性（戦前の記事切抜きはほとんど残っていない）から高い評価を得ており、主に外部からの利用が多数を占める（H20年度トップページアクセス数 69,272 件中 67,204 件（約 97%）が学外からのアクセスである）。今年度も、科学研究費補助金研究成果公開促進費の獲得により計画どおりに進めることができた。

機関リポジトリについては博士論文の電子化に力を入れ、収集件数 230 件であった（前年度 129 件）。更に引き続き学内研究者の学術成果の収集と公開を行うとともに、事業を今後安定して遂行していくための業務ワークフローと労力配分を見極める必要がある。

（４）機関リポジトリによる情報発信

< コンテンツ収集活動 >

- ・ 18 年度に稼動を始めた神戸大学学術成果リポジトリ（Kernel）は、比較的順調に成長を続け、20 年度末現在のコンテンツ数は 8,900 件を越え、1 年間で約 1,500 件増加した。種別内訳は下表のとおりである。

一般雑誌記事	29	図書	13	会議発表論文	15
データベース	1	紀要論文	7,857	学術雑誌論文	644
研究報告書	31	博士学位論文	402		
合 計					8,992

- ・ 紀要論文は『国民経済雑誌』掲載論文の電子化公開を従来通り重点的に進めている。戦前（1906-1944）の刊行分について電子化作業を行い、許諾申請など公開のための準備作業を進めた。
- ・ 学術雑誌論文については、Web of Science 等の文献情報データベースから得た神戸大学研究者の論文情報をもとに提供依頼を継続して行った。また、神戸大学研究者情報データベース（KUID）から得られる業績情報に基づいて依頼を行った。
- ・ 神戸大学固有の研究業績として、博士学位論文に注目し、重点的な収集活動を行っている。神戸大学の博士号を持つ学内外の研究者を調査し、提供依頼を行った。また、博士学位論文公開を支援する目的で、論文内容及び論文審査結果の要旨集の電子化を継続し、冊子体の刊行が廃止された今年度分を公開、また過去 2 年分の冊子体を公開した。

< 広報活動 >

- ・ 学内教員への浸透を図るため、前年度から開始している『Kernel 通信』の第 3 号を発行した。
- ・ 昨年度に引き続き博士学位論文の系統的、組織的収集を目指し、各研究科に協力を求めた。また、学位授与式に出向き、学位論文の登録をよびかける案内を配布した。

< CSI 事業 >

- ・ 国立情報学研究所の「次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業（CSI 事業）」により、220 万円の委託事業費を得た。
- ・ CSI 事業は、領域 1「機関リポジトリの構築と運用」では、上述『国民経済雑誌』戦前分の電子化を行った。
- ・ 領域 2 では、筑波大学、千葉大学、東京工業大学と連携して、学協会の「著作権ポリシー共有機

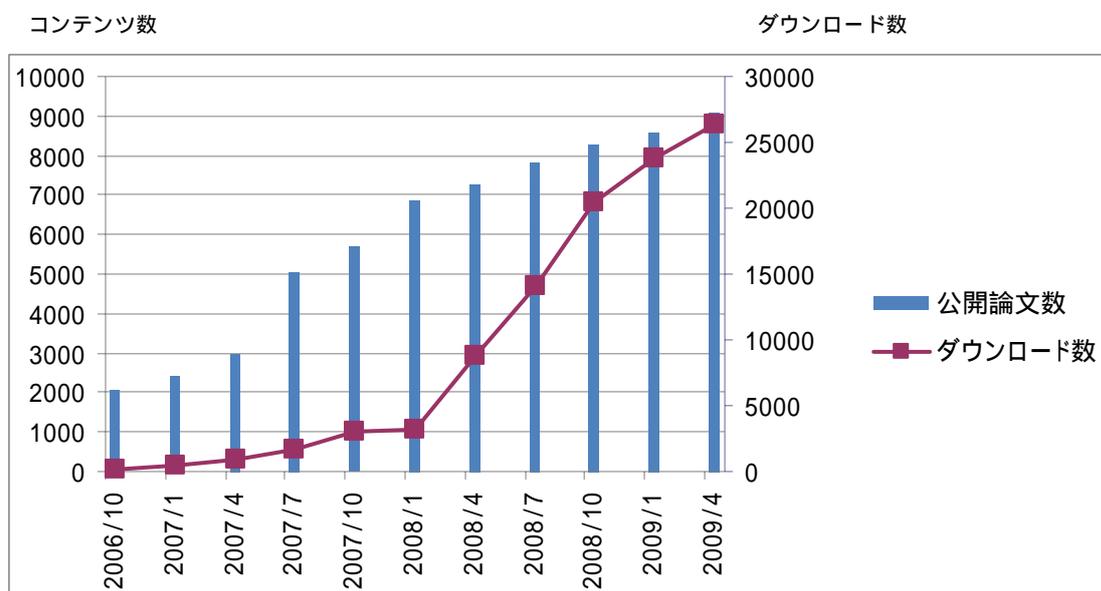
能」の実現を目指し、学協会の著作権ポリシーについて引き続き調査を進めた。

- ・ CSI 事業に関連する次のワークショップに参加した。H19 年度 CSI 委託事業報告交流会（6 月、於：学術総合センター）第 4 回 DRF ワークショップ「日本の機関リポジトリとそのテーマ 2008」（11 月、於：パシフィコ横浜）DRF 地域ワークショップ（近畿地区）DRF-Senri（1 月、於：大阪大学）機関リポジトリアウトプット評価システムワークショップ（2 月、於：千葉大学）。

評価と課題

コンテンツ数の増加に伴って、論文のダウンロード数も増加している。下のグラフはコンテンツ数と論文ダウンロード回数の推移を示している。2008 年 10 月頃には月間約 2 万件となり、4 月に比して倍増しており、その後もほぼ増加傾向にある。

また、『21 世紀倫理創成研究』など、いくつかの学内刊行紀要について、Kernel での公開を発行元から依頼されるようになった。ダウンロード件数の増加と併せて、学内外で Kernel の認知度が高まってきたことが伺える。



今後の課題としては、重要コンテンツである博士学位論文の収集が安定的・組織的に行えるような体制の整備が欠かせない。そのためには、各研究科の協力が必須であり、一層の理解を得られるよう広報活動に力を入れる必要がある。

(5) 国際連携

< 韓国海洋大学校図書館との協力推進 >

- ・ 昨年度、韓国海洋大学校図書館と協力協定を締結し、協定内容に従って、今年度は大学の学術出版物の交換のため、本学の交換可能な紀要類のリストを作成し送付した。
- ・ 重複資料の交換のため、自然科学系図書館と海事科学分館の重複資料リストの作成を進めた。
- ・ 平成 21 年度には、職員の交流が予定されているので、今年度は日程調整、宿泊施設の手配等を行った。

評価と課題

予算の関係もあり、20年度は目立った事業は行えなかったが、今後の職員交流に向けて準備を進め、平成21年10月12～23日には、韓国海洋大学校図書館の職員2名が来館されることになっている。いよいよ21年度からは実質的な交流が始まることになり、受入側として十分に準備を進めなければならない。

5 . 管理運営等

(1) 図書館組織と運営

< 管理運営全般 >

19 年 4 月より部局長経験者である武田廣館長（理学研究科教授）がその任に当たっている。3 名の副館長の役割分担も以下のとおり 19 年度から継続している。

出井文男副館長（経営学研究科教授） 社会科学系図書館担当 広報担当

塩谷茂明副館長（自然科学系先端融合研究環教授）自然科学系図書館担当 国際交流担当

三上剛史副館長（国際文化学研究科教授） 評価担当

< 館内諸会議 >

附属図書館運営委員会

- ・ 20 年度は 4 回開催した。開催日時、議事内容は、巻末添付資料に掲載。

附属図書館長・副館長・分館長懇談会

- ・ 20 年度は 4 回開催した。開催日時、議事内容は、巻末添付資料に掲載。

附属図書館評価委員会

- ・ 20 年度は 2 回のメール回議を含め 3 回開催した。開催日時、議事内容は、巻末添付資料に掲載。

附属図書館研究開発室会議

- ・ 20 年度はメール回議を含め 2 回開催した。開催日時、室員名簿、議事内容は、巻末添付資料に掲載。

全学図書系係長会議

- ・ 20 年度は 4 回開催した。附属図書館事務部の部課長、補佐、係長及び経済経営研究所図書係長がメンバーで、全学図書館業務に係る実務的な会議である。
- ・ 開催日時、議題等一覧は、巻末添付資料に掲載。
- ・ 20 年度も、報告事項を出来る限り少なくし、審議事項を中心に積極的に意見交換し、結論を得るよう努めた。

< 図書館審議会答申の具体化 >

附属図書館審議会答申「教育研究基盤資料の整備方策」(平成 18 年 3 月)を受けて、20 年度は全学経費として所要額 2.9 億円の財源を確保し、約 10,500 誌の電子ジャーナルと 38 種のデータベースを全学に提供している。また、共同利用を前提として外国雑誌購読について、購読額の 3 割をこの経費から補填した。併せて、各館室で備え付けるべき高額図書（1 セット 10 万円から 500 万円まで）を整備した（19 点 2 千万円）。

< 図書館審議会の開催 >

学長から本学の次期中期計画における教育研究基盤資料の維持・整備方策について諮問があった（H20.12.11）。附属図書館審議会では、具体案を検討するために館長・副館長・分館長懇談会のメン

バーで構成する特別委員会を設置し、特別委員会で検討の後、第 2 回附属図書館審議会（H21.1.15 開催）で特別委員会での答申（原案）が提示され、各部局に持ち帰り検討した結果、第 3 回附属図書館審議会（H21.2.12 開催）で審議会答申（案）について審議・了承され、学長に答申した（H21.2.17）。

- ・ 附属図書館審議会答申「次期中期計画における教育研究基盤資料の維持・整備方策について」の内容：
前の審議会答申を踏まえ、大学の財政状況が厳しい中、電子ジャーナルを含む外国雑誌等の教育研究基盤資料をいかにして安定的に維持・整備していくかについて、平成 22 年度から始まる次期中期計画期間における当面の諸施策を提案した。その骨子は、実施期間は 2 年間（H22～H23）、総額の上限は 3 億 2 千 4 百万円、全学経費と間接経費（全学共通分）の折半、外国雑誌購読 2 割補填、高額教育研究基盤図書は対象外、電子ジャーナル・データベースの新規導入分 2 千万円の増額枠、である。
- ・ 答申全文は「次期中期計画における教育研究基盤資料の維持・整備方策について（答申）」（H21.2.12）を参照。

附属図書館審議会の開催日時、議題、委員名簿等一覧は、巻末添付資料に掲載。
特別委員会の開催日時、議題、委員名簿等一覧は、巻末添付資料に掲載。

評価と課題

附属図書館審議会答申「教育研究基盤資料の整備方策」（18 年 3 月）により、19 年度から 21 年度については、全学共通経費 1.5 億円及び部局拠出 1.5 億円の合計 3 億円を上限とし、電子ジャーナル及びデータベースの提供維持、30%の外国雑誌購読経費補填、高額教育研究基盤図書の整備を実施することとされている。

今回、前の答申を踏まえ 22 年度からの次期中期計画における新たな維持・整備方策について、附属図書館審議会で検討し、答申案をまとめ、学長に答申した。これにより、22 年度から 2 年間の維持・整備方策は方向性が定まった。なお、24 年度以降の維持・整備方策については、22 年度に全学的に検討することとされた。

（2）事務組織と人事管理

< 図書館事務組織 >

- ・ 20 年 4 月に、附属図書館事務組織について下記の再編を行った。
課長補佐の職務内容を見直し（報告・連絡・相談体制の強化及び職務分担の明確化）、情報管理課課長補佐 3 名、情報サービス課課長補佐 1 名から情報管理課課長補佐 2 名（企画・総務・評価担当及び国際・電子化・情報担当）、情報サービス課課長補佐 2 名（サービスデザイン担当及び共同利用・分担保存担当）の体制にした。
情報サービス課電子図書館係及び情報システム係を、図書館サービス主体の係と区別しサービスを支援する係としての位置付けを明確にするために情報管理課に移行した。
定員削減（1 名）の結果、係体制の維持が困難となるため、情報管理課海事科学情報管理係を情報サービス課海事科学情報サービス係と統合、情報サービス課海事科学情報サービス係として再編し、業務運営の柔軟な対応と業務の効率化を図った。

- ・ 20年5月現在、附属図書館事務部は2課18係、定員49名、非常勤職員38名、経済経営研究所図書係は、定員3名、非常勤職員1名の91名となっている。
- ・ 20年5月現在、職員の配置状況は、以下のとおりである。

地区	館室	配置係数等	定員職員	非常勤職員	計
六甲地区	総合・国際文化学図書館	サービス課長 2係	5	4	9
	社会科学系図書館	部長 管理課長・補佐 7係	20	19	40
	自然科学系図書館	管理課補佐 3係	8	4	12
	人文科学図書館	1係	3	2	5
	人間科学図書館	1係	3	2	5
	経済経営研究所図書館	1係	3	1	4
	楠地区	医学分館	サービス課補佐 2係	5	3
名谷地区	保健科学図書室	1係	1	2	3
深江地区	海事科学分館	サービス課補佐 1係	4	2	6
			52	39	91

- ・ 現在のところ、社会科学系図書館が事実上の中央館として機能しており、企画係・管理係が全館の総務機能を、図書受入係・雑誌情報係・目録情報係は、当該業務に係る全館調整機能と社会科学系図書館及び総合・国際文化学図書館の整理業務を担当している。
- ・ 情報サービス課の情報リテラシー係（総合・国際文化学図書館配置）、情報管理課の電子図書館係（社会科学系図書館配置）、同情報システム係（自然科学系図書館配置）は、当該業務の全館調整機能を果たしている。
- ・ 情報管理係は、自然科学系図書館及び医学分館に配置し、各館の総務機能と整理部門を担当し、各館室に配置する情報サービス係は、主に各館室のサービス業務を担当している。

< 職員の採用と育成 >

- ・ 19年度末の図書系職員の定年退職に伴い、近畿地区国立大学法人等職員採用試験図書系専門試験受験者の中から20年度に職員1名を新規採用した。
- ・ 「附属図書館初任者等研修」を2日間下記の日程で実施した。受講者は7名。

	研修内容	担当者
4/17 (木)	大学図書館の課題 附属図書館の中期目標・年度計画 大学図書館におけるサービス 大学法人職員としての服務 受入業務の概要 雑誌業務の概要 図書館見学（社会科学系図書館）	事務部長 情報管理課長 情報サービス課長 企画係長 図書受入係長 雑誌情報係長 社会科学系情報サービス係長
4/18 (金)	目録データベースの構築 コンピュータの使用とセキュリティ 電子図書館システム・震災文庫 情報検索（OPAC、EJ、DB）	目録情報係長 情報システム係長 電子図書館係長 情報リテラシー係長

- ・ 図書館では、事務系職員の「身上調書」とは別に図書系職員の「意向調書」を実施している。20年度も職員のキャリア形成に係わる目標や希望に加えて、業務内容やスキルの分析、業務目標の達成度評価等を盛り込み、よりの確な聴取に努め、その結果研修計画等に反映した。
- ・ 国立情報学研究所の主催する各種研修、大学図書館職員長期研修、主題専門知識の研修等に職員を派遣し、スキルアップに努めた。今年度参加の主な研修は次のとおりである。

区分	研修名	主催	日程	参加者
若手職員向けの基礎研修	図書館等職員著作権実務講習会	文化庁	9/10～12	係員1
	大学図書館近畿イニシアティブ基礎研修「初任者研修」	大学図書館近畿イニシアティブ	11/5～6	係員1
中堅(係長クラス)向けの研修	大学図書館職員長期研修	筑波大学	7/7～18	係長1
個別業務の専門的知識のための研修	目録システム講習会[雑誌コース]	国立情報学研究所	6/18～20	係員1
	古文書合宿	人文学研究科	9/8～10	係長1 係員2
	目録システム講習会[図書コース]	国立情報学研究所、神戸大学	9/24～26	係員1 非常勤1
	NAIST 電子図書館学講座	奈良先端科学技術大学院大学	10/30～31	係員1
	医学図書館研究会・継続教育コース	日本医学図書館協会	11/5～7	係員1
1日以内の講演会・研究会等	各種講演会等「古文書講習会」「阪神・淡路大震災資料の保存・活用に関する研究会」「講演会「図書館の目指す先に見えるもの」」ほか	兵庫県大学図書館協議会、国立大学図書館協会近畿地区協会、京都大学、神戸大学ほか(主に近畿地区で開催されるもの)	各半日～1日	管理職を含め延べ40

- ・ 国際化への意識啓発及び国際業務対応能力養成として以下の研修等にも職員を派遣した。

区分	研修名	主催	日程	参加者
国際業務・海外研修	平成20年度神戸大学事務職員国際業務研修(担当職員養成研修)	神戸大学	7/15～10/7間の12回	係員2
	イリノイ大学モートンソンセンター研修プログラム(平成20年度国立大学図書館協会海外派遣事業)	国立大学図書館協会	9/2-10/31	係員1

評価と課題

学外の各種図書館関連研修、情報関連研修、専門主題に関わる研修に職員を派遣した。また、学内の国際業務研修や人文学研究科の古文書研修を職員に受講させた。その研修成果は、報告書の提出や報告会の開催等の義務付けにより他の職員の能力開発に役立てるとともに、日常業務のレベルアップや1年次必修科目「情報基礎」での図書館サービスの概説担当などの業務に生かされている。

また、職員に海外の先進図書館を調査・研究させ、業務に生かすとともに職員の育成を推進するため、

その一環として平成 20 年度国立大学図書館協会海外派遣事業に応募し、選抜された本学職員をイリノイ大学モートンソンセンターに 9 月から 8 週間の研修プログラムで派遣し、研修成果は雑誌投稿等により公表する予定である。

<業務の改善と効率化・合理化>

業務の標準化・合理化

- ・ 本学の附属図書館は、4 キャンパス 9 館室に分散し、部局密着型の図書館として機能してきたという歴史的な背景もあり、業務の面において館室毎に独自の処理や手順が未だ多く残っている。このため、業務の効率化・合理化に当たって、20 年度は以下のことを実施した。
サービス業務について標準化・簡素化すべき事項の洗い出しを行った。
図書分類の標準化については、NDC10 版刊行時期に合わせて、各館毎に標準化モデル案に沿いながら、より具体的な検討を行うこととした。なお、請求記号ラベルの印字については、より見やすい文字サイズ、フォントの新様式を追加するシステム改善を行った。

アウトソーシング

定員削減等に対応し、業務の軽減方策として、図書館業務に関しては、雑誌製本業務、目録登録業務（以上は 19 年度から既定経費化）、目録遡及入力業務、社会科学系図書館及び医学分館の時間外開館業務、文献複写業務、電子化コンテンツの作成を 19 年度に引き続き外部委託している。

業務改善の検討

- ・ 「神戸大学業務改善プロジェクト報告書」(18 年 7 月)を受け、図書館において業務改善により削減可能な時間数は最終的に 8,373 時間（定員内 5,613 時間、非常勤 2,760 時間）となった。これにより、18 年度末定員 1 名、19 年度末定員 1 名、非常勤 1 名、21 年度末定員 1 名の合計定員 3 名、非常勤 1 名の削減計画を立て、19 年度末までに定員 2 名、非常勤 1 名の削減を実施した。
- ・ 18 年度に発足した業務改善推進プロジェクトにより 6 月と 11 月の 2 回、業務改善策の進捗状況について報告を行った。図書館の業務改善策のうち、複写経費一元化、文献複写経費一元化、図書予算配分方法の見直し及び外部資金で購入する図書の購入方法の見直しについては、関係部署と協議の上、大学全体の業務改善にはならない等のため、対応策は実施困難であることが了承された。
- ・ 20 年度に選書データベースを活用した書店発注システムを導入し、業務改善対応策として上げていた取引業者の絞込み及び、図書館業務システムとのデータ連携及び書店発注システムの活用が実現した。
- ・ 引き続き検討しなければならない図書館の業務改善策の内容は下記のとおりである。1 . については、全学の運用保守管理体制の一部であり、図書館単独での実施は困難とし、ICT 戦略での全学的な検討が必要であるとし、2 . ~ 4 . については、22 年度から稼動する新財務会計システムとの連携により実施する予定である。
 - 1 . 情報システム運用管理・保守管理業務のアウトソース（図書館システム）(削減効果 800 時間 H.21.4 までに実施)
 - 2 . 図書購入方法の見直し（削減効果 未定 H22.4 までに実施）
 - 3 . 図書予算の大括り化（削減効果 900 時間 H.22.4 までに実施）
 - 4 . 予算確認・調整業務の廃止（削減効果 600 時間 H.22.4 までに実施）

(3) 予算及び財務会計業務

<平成 19 年度附属図書館予算・決算>

経常運営費

- ・ 20 年度当初予算 179,604 千円 決算額 181,063 千円であった。
- ・ 19 年度の当初予算 183,644 千円、決算 181,670 千円に比較して、当初予算について大幅に節減した。(当初予算額 H19 予算比 4,040 千円 2.2%減、H19 決算比 607 千円 0.3%減)

経常事業費

- ・ 20 年度当初予算 246,850 千円 決算額 245,998 千円であった。
- ・ 19 年度の当初予算 241,679 千円、決算 243,791 千円に比較して、当初予算、決算額とも大幅な増額となった。(当初予算額 H19 予算比 5,171 千円 2.1%増、H19 決算比 2,207 千円 0.9%増)
- ・ 20 年度は、既定予算として学生用資料費の予算枠を維持した。(63,000 千円 63,000 千円)

20 年度臨時的経費

- ・ 教育研究基盤資料整備費により、外国雑誌を含む電子ジャーナル、データベース及び高額教育研究基盤図書の維持及び整備を実施した。(290,000 千円(全学経費 1.5 億円 + 部局拠出分 1.4 億円))
- ・ 建物改修に伴う総合・国際文化学図書館及び人文科学図書館の移転や設備整備の経費については、19 年度からの繰越額として総額で 17,984 千円を執行した。
- ・ 部局長裁量経費及び収入確保インセンティブ経費等により、建物改修した総合・国際文化学図書館、人文科学図書館及び人間科学図書館の 3 館を中心に設備の充実を図った。

その他の経費

- ・ 電子図書館事業に関連して新聞記事文庫コンテンツ作成のため、科学研究費補助金 12,500 千円を獲得
- ・ 神戸大学学術成果リポジトリの推進のため、国立情報学研究所の「次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業(CSI 事業)」委託事業費 2,200 千円を獲得
- ・ 山口文庫資料購入のため、山口哲子奨学寄付金 877 千円を獲得

○ 20 年度附属図書館予算及び決算を巻末に添付する。

評価と課題

附属図書館審議会答申「教育研究基盤資料の整備方策」を受けて、20 年度予算については、教育研究基盤資料整備費として所要額 2.9 億円の財源を確保し、約 10,500 誌の電子ジャーナルと 38 種のデータベースを全学に提供している。併せて、各館室で備え付けるべき高額図書(1セット 10 万円から 500 万円まで)を整備した(19 点 2 千万円)。また、学生用資料費は昨年度と同額の 63,000 千円を確保し学生用資料の充実を図った。学生一人当たり一冊以上の図書の購入が実現できている。

20 年度も、19 年度と同様に労働安全衛生の観点からの施設補修、設備改修等の整備を実施した。予算的には、全学経費(施設部営繕予算)や部局長裁量経費等によって、その枠内でできるだけだけの整備を行った。しかしなお、20 年度に改善できなかつた点が残り、今後の整備が課題である。

< 図書資産の管理 >

図書資産の点検

20年度は下記の図書館の点検を授業休業期間等を実施した。

(作業館室等)社会科学系図書館、経済経営研究所図書館、海事科学分館で、合わせて406,617冊。

なお、20年度については、不用資料の処分を実施した。(24,928点、資産価格215,653,802円)

評価と課題

資産の効率的運用を図るために昨年度に引き続き、図書資産の点検を社会科学系図書館、経済経営研究所図書館及び海事科学分館において実施した。

教育研究活動に応じた効率的なスペース配分など全学的方針の確立を図るため、附属図書館収容力確保の方針について、18年度第2回図書館運営委員会(18年10月24日開催)で審議し、全体的な調整を図りながら、各館室において保存基準を策定し、整理して行くことになった。第1段階として、各館で重複する図書の整理、第2段階として、学内他館と重複する雑誌の調整した上での整理、に取りかかることになった。この方針に基づいて、不用資料の処分を実施した。

(4) 施設整備・システム整備

< 図書館施設の現況 >

- 20年度の図書館施設整備状況について、全9館室の概況をまとめた。各館室別データは、巻末基本統計のとおりである。

	H19年度末	H20年度末	分析指標
施設総面積	26,234 m ²	26,234 m ²	学生あたり面積 1.53 m ² 1.55 m ²
図書収容力	3,079,800 冊	3,081,200 冊	蔵書数に対する収容可能率 87.4% 86.5 %
閲覧座席数	1,692 席	1,718 席	学生数に対する座席率 9.8% 10.1 %

【参考：Aクラスの国立大学(8学部以上の18大学)の平均値 平成19年度学術情報基盤実態調査結果報告より】

施設総面積	27,926 m ²	学生あたり面積	1.73 m ²
書架収容力	2,751,116 冊	蔵書数に対して	93.4%の収容力
閲覧座席数	1,865 席	学生数に対して	11.6%の座席率

< 各館室の施設整備 >

- 20年度に完了した総合・国際文化学図書館における耐震改修工事に伴い、以下の整備を実施した。
 - 総合・国際文化学図書館：閲覧机・椅子の増設、ブラインド及びロールカーテンの設置、館内放送設備の整備、電動式集密書架の設置、無断持ち出し防止装置の設置、防犯カメラ装置の設置、誘導灯の設置
 - 人文科学図書館：電動式集密書架の修理、マイクロキャビネットの設置、自動貸出装置の更新、空調機の修理、防犯カメラ装置の設置
 - 人間科学図書館：木製カウンターの設置
- 耐震改修工事に伴うもの以外について以下の整備を進めた。
 - 社会科学系図書館：大閲覧室の空調設備設置及び照明器具更新
 - 自然科学系図書館：防犯カメラ装置の増設、空調機修理
 - 保健科学図書室：書架の増設、修士論文用保管庫の設置、ブラインドカーテンの取付
 - 医学分館：24時間開館管理システム用スキャナ及びパソコン更新

<安全点検>

- ・ 労働安全衛生法に基づく衛生管理者を置き、毎週点検を実施した。
- ・ 20年度の労働安全衛生に関連する改善事項を記す。

社会科学系図書館	本館受付カウンター～書庫間身障者用スロープ設置
人文科学図書館	1階閲覧室北側の非常口への誘導表示の取付 2階開架閲覧室北側壁面の書架(上部)固定 停電時における地階書庫への対応
人間科学図書館	書架等転倒防止及び什器固定 非常口の誘導表示の取付

評価と課題

平成20年度に完了した、総合・国際文化学図書館の耐震改修工事により、改修期間中、社会科学系図書館書庫C棟・管理棟に保管していた資料・什器類も総合・国際文化学図書館に再搬送したことにより、利用者への不便は解消されたものと思われる。

ただその一方で、社会科学系図書館を始めとして、各分館の建物も老朽化が激しく、使用に苦慮をしている状況なので、施設部への要求として、施設担当理事あての要求は引き続き行っている。(屋上防水工事・便所改修工事・空調機更新等)

<システム整備>

- ・ 教員からの図書購入依頼の際に、書店データベースを参照可能とし、新刊書籍情報の取得および入力作業の負担軽減を実現した。
- ・ 請求記号ラベルについては、より見やすい文字サイズ、フォントの新様式を追加するシステム改善を行った。
- ・ 統合ユーザ管理システムとの連携ツール導入により、図書館利用者用データ取得処理の簡素化を実現した。

評価と課題

昨年度から引き続きサービス向上及び業務合理化のためのシステム改良を実施した。

21年度は、22年度から運用開始される財務会計システムにおいて、図書の支払処理を行うこととなったため、その導入作業を実施することとなる。さらに、23年に更新予定の図書館システム(業務システム、デジタル・アーカイブを含む)について引き続き検討を実施し、統合的な情報提供システムの実現などの機能強化及びサービス向上を図る。また、財務会計システムや教務システム及び認証基盤システム等の学内の他システムと連携を強化し、効率的な運用かつ効果的なサービスを実現するための検討も必要である。

(5) 図書館界での諸活動

<国立大学図書館協会>

- ・ 総会において、引き続き監事館に選出され、協会活動の監査業務を行うとともに、理事会に出席した。
- ・ 「学術情報委員会」の委員を務めた(事務部長)。

<兵庫県大学図書館協議会>

- ・ 19年度に引き続き、会長館、事務局として協議会の運営にあたった。
- ・ 加えて、研修事業においては研修担当館として、講演会および研究会の企画・運営にあたった。
 - ・ 講演会「大学図書館をめぐる著作権の動向」
 - ・ 研究会「教員組織との連携による新たな教育・学習支援活動の在り方について」
- ・ 20年度の新規事業として海外研修事業を立ち上げ、海外研修者を募集した。
- ・ 県の大学図書館にとどまらず、公共図書館や大学図書館近畿イニシアティブ加盟館とも連携強化を図っている。
- ・ 20年度の活動成果として、各加盟館における「アウトソーシングの現状」等を再認識し、また「図書館広報活動」の状況を把握することにより、今後の大学図書館の在り方を考える上でも貴重な情報共有ができた。さらに図書館利用教育、情報検索指導や情報リテラシー教育実施等の図書館における様々な活動を調査することにより、教育・学習支援活動の現状を把握し、さらなる展開を模索する情報を得ることができた。
- ・ 全国図書館大会兵庫大会実行委員会に委員を派遣した（事務部長）。
- ・ 全国図書館大会兵庫大会運営委員会に委員を派遣した（情報サービス課補佐【医学分館】）。
- ・ 全国図書館大会兵庫大会資料保存分科会へ講師（社会科学系情報サービス係員）を派遣した。
- ・ 全国図書館大会兵庫大会への協力および参加した。

<その他>

- ・ 近畿地区国立大学等職員採用図書系専門試験実施委員会の委員を務めた。
- ・ 大学図書館近畿イニシアティブ運営委員会の委員を務めた。
- ・ 大学図書館近畿イニシアティブ能力開発専門委員会の委員を務めた（情報管理課補佐【自然科学系図書館】）。

評価と課題

大学図書館協会や兵庫県大学図書館協議会の活動は、協議・調査・研究等を通して図書館間のより緊密な連携と協力を図ることによって、それぞれの図書館機能の向上を支援するとともに、学術情報資源の共同整備と相互利用を促進させることへのメリットが大きい。また、海外研修等の実施計画により、大学図書館職員の資質向上を図ることは、新たな人材育成への推進となる。

附属図書館蔵書・受入等の現況(平成20年度)

平成20年度

		総合・国際	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計		
蔵書	蔵書数 (冊)	501,354	1,256,676	476,707	282,913	321,063	273,319	137,129	60,709	253,802	3,563,672		
	和洋区分	和漢書	355,941	586,351	251,367	177,031	247,590	118,340	55,684	52,508	195,913	2,040,725	
		洋書	145,413	670,325	225,340	105,882	73,473	154,979	81,445	8,201	57,889	1,522,947	
	目録状況	目録入力対象	437,000	883,000	302,000	242,000	240,000	208,000	56,000	49,000	197,000	2,614,000	
		入力済	324,000	765,000	192,000	193,000	190,000	153,000	35,000	48,000	196,000	2,096,000	
		未入力	113,000	118,000	110,000	49,000	50,000	55,000	21,000	1,000	1,000	518,000	
	所蔵雑誌数 (タイトル数)	2,314	8,274	5,005	3,941	2,379	4,051	2,107	752	4,990	33,813		
	和洋区分	国内雑誌	1,419	2,171	2,304	2,826	1,683	1,929	704	594	3,487	17,117	
		外国雑誌	895	6,103	2,701	1,115	696	2,122	1,403	158	1,503	16,696	
	図書受入	受入図書数 (冊)	5341	3848	21,958	7,629	5,588	7,339	2,392	2,878	2,526	4,417	63,916
和洋区分		和漢書	5264	2642	12,977	5,045	4,225	5,308	1,366	2,292	2,224	3,794	45,137
		洋書	77	1206	8,981	2,584	1,363	2,031	1,026	586	302	623	18,779
取得手段		購入(一般財源)	5266	2753	10,772	3,775	2,610	5,453	1,044	919	1,530	2,782	36,904
		補助金による購入	22	804	4,549	1,907	1,936	1,539	173	512	464	159	12,065
		一般寄贈	0	211	2,688	975	557	127	895	827	202	1,083	7,565
		製本編入	53	80	3,949	972	485	220	280	620	330	393	7,382
取得目的		学生用図書	4875	672	5,214	3,378	673	2,072	118	1,111	1,388	3,496	22,997
		図書館備付	314	791	10,517	457	1,946	1,347	1,596	1,180	330	393	18,871
		研究室備付	152	2385	6,227	3,794	2,969	3,920	678	587	808	528	22,048
除却・移譲等による減 (冊)		2	1,854	9,931	3,418	204	256	85	3,406	11	5,761	24,928	
和洋区分		和漢書	2	1643	7,939	2,380	125	179	80	212	11	4,657	17,228
		洋書	0	211	1,992	1,038	79	77	5	3,194	0	1,104	7,700
年間増加数 (冊)		5,339	1,994	12,027	4,211	5,384	7,083	2,307	-528	2,515	-1,344	38,988	
和洋区分		和漢書	5262	999	5,038	2,665	4,100	5,129	1,286	2,080	2,213	-863	27,909
		洋書	77	995	6,989	1,546	1,284	1,954	1,021	-2,608	302	-481	11,079
雑誌受入		受入雑誌数 (タイトル数)	133	385	3,343	1,229	1,845	1,040	997	663	405	845	10,885
	和洋区分	国内雑誌	105	309	1,252	884	1,584	893	470	443	349	715	7,004
		外国雑誌	28	76	2,091	345	261	147	527	220	56	130	3,881
	取得手段	購入(一般財源)	133	137	2,829	755	330	451	385	211	129	167	5,527
		補助金による購入	0	0	47	0	0	0	0	40	0	0	87
		一般寄贈	0	248	467	474	1,515	589	612	405	276	678	5,264
		その他	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	7
	取得目的	学生用雑誌	105	36	69	174	23	160	0	191	116	307	1,181
		図書館備付	0	305	2,838	778	1,822	589	997	413	276	485	8,503
		研究室備付	28	44	436	277	0	291	9	59	13	53	1,210
その他資料受入	受入新聞数 (タイトル数)	7	2	30	10	6	5	9	5	7	13	94	
	和洋区分	国内新聞	6	0	25	9	4	5	4	4	7	13	77
		外国新聞	1	2	5	1	2	0	5	1	0	0	17
	取得手段	購入	6	2	30	10	6	5	9	5	4	11	88
		寄贈	1	0	0	0	0	0	0	0	3	2	6
	データベース(年間契約点数)	14	0	3	1	0	0	0	5	0	0	23	
	電子ジャーナル(利用可能数)	10,450										10,450	
資料購入費	一般財源資料費	292,820,776	22,642,228	188,386,246	59,566,930	20,992,329	31,311,446	22,865,207	19,433,210	14,528,040	16,109,906	688,656,318	
	図書館セグメント	学生用図書	18,208,946	2,859,653	13,796,594	14,638,688	2,893,905	4,324,111	990,295	5,919,477	3,974,072	4,163,697	71,769,438
		高級教育研究基盤図書費		2,279,550	6,192,879	1,131,585	1,661,604	4,154,689	1,028,160		788,676	2,763,600	20,000,743
		その他資料費	271,323,686		38,942,449								310,266,135
	部局セグメント	館室備付	2,761,849	5,673,850	108,062,851	21,186,511	11,578,881	5,977,730	19,740,532	11,808,055	6,770,159	6,701,347	200,261,765
		研究室備付	526,295	11,829,175	21,391,473	22,610,146	4,857,939	16,854,916	1,106,220	1,705,678	2,995,133	2,481,262	86,358,237
	その他の財源 補助金等		3,723,649	6,878,805	38,544,729	18,195,241	15,446,246	8,210,037	1,033,157	20,178,898	1,457,421	1,257,568	114,925,751
		COE等(内数)								12,284			12,284
	図書購入費	14,517,667	22,430,739	119,988,600	40,190,548	26,397,452	28,131,611	9,418,853	13,131,868	10,430,639	11,995,735	296,633,712	
	和洋区分	和漢書	13,372,985	11,239,359	42,562,438	18,018,394	16,406,699	18,829,872	4,171,672	7,539,752	8,921,789	8,416,703	149,479,663
		洋書	1,144,682	11,191,380	77,426,162	22,172,154	9,990,753	9,301,739	5,247,181	5,592,116	1,508,850	3,579,032	147,154,049
	雑誌購入費	33,730,018	4,401,624	98,393,385	21,783,839	7,863,652	9,558,173	11,816,555	19,424,516	5,124,784	4,503,669	216,600,215	
	和洋区分	国内雑誌	1,146,451	287,187	29,989,632	6,476,647	1,467,858	3,423,844	1,748,915	4,029,054	1,616,549	1,671,706	51,857,843
		外国雑誌	32,583,567	4,114,437	68,403,753	15,307,192	6,395,794	6,134,329	10,067,640	15,395,462	3,508,235	2,831,963	164,742,372
	新聞購入費	294,756	43,379	2,606,658	471,636	297,576	265,860	550,587	247,656	137,880	483,568	5,399,556	
	電子資料費	247,922,245	236,250	1,648,463	11,304,582				6,297,515	148,750	350,280	267,908,085	
	その他の資料購入費	79,739	2,409,041	4,293,869	4,011,566	1,879,895	1,565,839	2,112,369	510,553	143,408	34,222	17,040,501	
	資料購入費計	296,544,425	29,521,033	226,930,975	77,762,171	36,438,575	39,521,483	23,898,364	39,612,108	15,985,461	17,367,474	803,582,069	
	電子コンテンツ作成費	17,352,805										17,352,805	
製本費	284,886		8,458,758	2,082,024	1,184,043	471,240	599,760	1,328,040	706,860	850,122	15,965,733		

附属図書館サービス業務の現況(平成20年度)

		総合・国際	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計	
施設	施設面積合計(m ²)	3,558	10,707	3,287	1,414	1,474	1,164	1,612	848	2,170	26,234	
	現行用途別(m ²)	サービススペース	1,954	2,365	1,577	775	538	170	838	653	719	9,589
		書庫スペース	1,208	5,801	449	473	714	885	431	38	1,051	11,050
		事務スペース	130	524	351	115	89	80	163	35	159	1,646
		その他	266	2,017	910	51	133	29	180	122	241	3,949
	閲覧座席数	閲覧座席数	450	411	223	105	151	11	164	70	133	1,718
		上のうち、教員用	0	0	0	0	0	11	0	0	0	11
	書架収容力	棚板延長(m)	11,554	51,264	10,684	8,824	7,249	6,833	5,616	1,641	7,258	110,923
		収容可能冊数	320,900	1,424,000	296,800	245,100	201,400	189,800	156,000	45,600	201,600	3,081,200
利用者端末台数		48	45	40	17	17	3	16	12	12	210	
利用者	利用対象者総数	6,199	3,916	4,895	648	1,148	34	2,335	682	860	20,717	
	利用者別	学部学生	5,656	2,280	2,244	301	679	0	406	353	488	12,407
		大学院生	214	1,295	1,846	266	325	0	484	239	186	4,855
		教職員	254	301	770	75	129	31	1,191	87	117	2,955
		その他	6	29	34	2	11	3	252	3	34	374
		学外登録者総数	69	11	1	4	4	0	2	0	35	126
内訳: 卒業生等26、放送大学53、一般市民47												
開館入館	開館日数	年間	242	316	277	239	265	236	288	257	262	2,382
		土曜(内数)	28	44	35	32	35	0	49	34	35	292
		休日(内数)	7	36	6	8	7	0	0	0	5	69
	時間外等開館時間数	平日時間外開館	653	1,058	788	490	676	0	972	492	522	5,651
		土曜開館	224	352	280	256	280	0	392	272	280	2,336
		休日開館	56	288	48	64	56	0	0	0	40	552
	入館者数	年間入館者総数	264,910	248,582	183,080	64,194	101,617	7,895	96,305	95,492	52,753	1,114,828
		時間内(含:土日)	217,828	184,024	133,502	54,662	88,356	7,895	59,715	83,891	44,759	874,632
		平日時間外	47,082	64,558	49,442	9,532	13,261	0	16,471	11,601	7,994	219,941
		閉館時(無人)	0	0	136	0	0	0	20,119	0	0	20,255
土曜(内数)		9,201	16,941	7,829	2,048	2,024	0	7,416	3,971	1,698	51,128	
休日(内数)		3,041	10,204	1,816	484	494	0	0	0	553	16,592	
学外者(内数)		182	798	318	172	95	56	1,414	275	528	3,838	
うち一般市民	102	383	226	51	29	0	707	178	421	2,097		
貸出	貸出総冊数	56,376	76,965	38,970	17,213	17,859	1,727	10,773	13,350	15,737	248,970	
	利用者別	学生	37,449	23,883	24,886	4,373	10,725	145	5,704	9,523	8,341	125,029
		院生	13,799	41,352	12,153	10,083	5,768	789	1,562	2,649	4,755	92,910
		教員	3,077	7,340	1,301	2,022	806	593	912	859	1,304	18,214
		職員	1,497	2,493	566	656	294	150	2,359	315	768	9,098
		その他	89	27	34	7	0	50	218	2	73	500
		学外者総数	465	1,870	30	72	266	0	18	2	496	3,219
うち一般市民	404	0	0	0	0	0	0	0	474	878		
参考調査	参考調査件数	3,709	4,723	4,020	2,258	511	424	1,200	1,542	1,631	20,018	
	利用者別	学生	3,292	2,787	2,930	1,967	395	202	450	1,140	956	14,119
		教職員	376	283	780	171	56	165	450	127	156	2,564
		学外者	41	1,653	310	120	60	57	300	275	519	3,335
複写相互利用	来館複写件数	5,678	14,082	16,389	11,471	7,418	2,560	10,841	6,773	942	76,154	
	利用者別	学内者	5,314	12,517	15,734	11,127	7,219	2,510	7,856	6,223	747	69,247
		学外者	364	1,565	655	344	199	50	2,985	550	195	6,907
	学内相互利用	ILL文献複写 受付	50	216	184	267	142	116	503	308	132	1,918
		ILL文献複写 依頼	344	233	223	85	512	6	267	393	81	2,144
	図書配送	配送申込者数	470	815	441	261	651	0	105	195	116	3,054
		配送申込冊数	764	1,508	758	405	1,649	0	203	240	198	5,725
	学外相互利用	ILL文献複写 受付	302	5,038	1,937	1,133	709	457	1,841	541	486	12,444
		ILL文献複写 依頼	655	896	1,289	1,046	1,658	73	2,179	2,388	156	10,340
		ILL現物貸借 受付	248	1,665	197	511	187	46	18	19	128	3,019
		ILL現物貸借 依頼	331	467	155	775	354	4	14	40	6	2,146
	海外ILL	文献複写 受付	0	11	0	1	0	0	0	0	3	15
文献複写 依頼		6	13	4	1	0	0	9	14	2	49	
現物貸借 受付		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
現物貸借 依頼		6	5	1	0	0	0	0	0	0	12	

電子ジャーナルタイトル数 (H20.4)	10,450
----------------------	--------

電子ジャーナルアクセス状況 (2008.1~12)

フルテキストへのアクセス数

	2008.1	2008.2	2008.3	2008.4	2008.5	2008.6	2008.7	2008.8	2008.9	2008.10	2008.11	2008.12	合計
Elsevier ScienceDirect	28,116	28,303	41,549	31,329	33,043	34,915	30,382	21,795	31,897	39,116	32,787	31,659	384,891
SpringerLINK	3,406	3,224	2,652	3,527	3,713	4,087	3,220	2,498	3,779	4,276	4,495	4,079	42,956
Wiley-Blackwell	0	0	0	0	0	0	5,971	5,055	5,865	8,241	6,663	6,550	38,345
(Wiley InterScience)	(2,796)	(2,691)	(2,951)	(2,998)	(3,832)	(3,241)							
(Blackwell)	(3,707)	(3,735)	(3,746)	(3,865)	(3,609)	(3,931)							
JSTOR	5,613	4,551	4,900	4,041	3,443	5,900	2,234	2,454	3,640	3,655	2,809		47,234
Nature	3,898	3,726	3,664	4,791	5,044	5,130	5,438	5,433	4,926	4,493	3,526		55,099
Science Online	1,117	968	853	1,580	1,378	1,386	1,184	983	877	1,242	1,233	982	13,783
IEEE CSLSP-e	1,386	1,541	1,473	1,653	1,785	1,948	1,496	1,415	1,119	2,024	1,363	1,563	18,766
ACM Portal	204	332	122	189	240	421	352	324	193	222	291	277	3,167
APS	1,727	2,041	838	1,141	855	1,199	1,535	1,364	800	1,041	1,543	1,412	15,496
LWW via Ovid	798	608	815	609	740	817	664	597	657	693	566	675	8,239
ACS	2,399	3,357	1,884	2,408	2,983	4,513	3,637	2,958	3,574	2,789	2,935	4,174	37,611
Oxford UP	2,126	1,823	1,668	2,044	2,219	2,471	2,424	1,559	1,675	2,463	2,032	1,766	24,270
Cambridge UP	285	236	159	277	421	328	363	236	245	312	419	372	3,653

導入データベース数 (H20.4)

全学利用	38 WWWアクセス(外部サーバ)15 CD-ROMサーバ 23
キャンパス限定(医学、海事)	3 医学3
スタンドアロン	285 各館館内利用のみ

データベースアクセス状況 (2008.1~12)

各項上段がセッション数、下段(カッコ)が検索数

	2008.1	2008.2	2008.3	2008.4	2008.5	2008.6	2008.7	2008.8	2008.9	2008.10	2008.11	2008.12	合計
Web of Science SCIE	3,173 (6,882)	2,557 (7,282)	1,991 (6,735)	3,012 (8,759)	3,153 (8,661)	3,768 (10,715)	3,310 (7,645)	2,060 (4,988)	2,576 (6,883)	7,418 (14,768)	3,170 (10,248)	3,811 (16,644)	39,999 (110,210)
医学中央雑誌	2,220 (32,737)	2,087 (29,719)	2,140 (31,355)	3,330 (47,368)	2,813 (41,567)	2,720 (41,964)	2,381 (32,725)	5,400 (27,976)	6,847 (35,364)	7,345 (37,140)	6,711 (34,114)	7,297 (33,754)	51,291 (425,783)
MathSciNet	2,028 (2,840)	1,680 (2,439)	1,879 (2,658)	2,761 (3,692)	2,998 (3,753)	2,378 (3,039)	2,569 (3,183)	2,013 (2,693)	2,703 (3,538)	4,169 (4,765)	3,700 (4,734)	4,190 (5,025)	33,068 (42,359)
SciFinder scholar	387 (1,417)	368 (1,407)	275 (921)	387 (1,420)	428 (1,644)	421 (2,429)	326 (1,488)	262 (1,133)	305 (1,038)	418 (1,747)	335 (1,325)	286 (1,102)	4,198 (17,071)
Readers Guide to Periodical Literature	18 (53)	17 (16)	55 (155)	67 (122)	72 (110)	82 (104)	61 (89)	42 (118)	42 (97)	62 (115)	56 (167)	50 (89)	624 (1,235)
Business Periodicals Index	25 (71)	19 (28)	12 (49)	11 (44)	19 (44)	8 (12)	19 (55)	19 (138)	6 (15)	16 (40)	33 (143)	12 (24)	199 (663)
EconLit	177 (805)	147 (730)	198 (1,178)	141 (520)	166 (709)	160 (643)	223 (1,404)	174 (659)	158 (700)	153 (634)	166 (646)	147 (706)	2,010 (9,334)
Index to Legal Periodicals & Books	15 (39)	10 (17)	2 (14)	9 (20)	11 (51)	7 (10)	14 (23)	6 (16)	3 (2)	9 (22)	19 (80)	6 (43)	111 (337)
JCR	498 (716)	345 (529)	381 (472)	566 (718)	538 (724)	717 (1,044)	648 (904)	413 (618)	543 (806)	525 (695)	453 (608)	471 (730)	6,098 (6,952)
JapanKnowledge	101 (5,513)	57 (4,245)	57 (3,184)	105 (5,377)	235 (8,501)	261 (10,412)	247 (20,725)	115 (10,044)	87 (12,041)	120 (21,844)	113 (18,374)	104 (17,415)	1,602 (137,675)
CiNii	72,072 (15,241)	49,208 (12,029)	23,819 (8,053)	39,487 (14,940)	93,489 (22,597)	108,633 (24,368)	56,601 (24,252)	45,477 (10,910)	3,645 (13,821)	89,463 (26,180)	87,976 (22,493)	118,629 (22,552)	788,499 (217,436)
日経テレコン21	352 (3,370)	307 (4,429)	191 (1,999)	220 (1,595)	422 (4,286)	496 (4,697)	553 (9,866)	187 (2,865)	185 (1,795)	420 (10,647)	490 (8,616)	503 (11,983)	4,326 (66,148)
MAGAZINEPLUS	142	109	171	360	536	609	502	203	236	451	375	368	4,062
理科年表プレミアム	7	23	6	8	13	25	15	5	6	12	0	6	126
JDreamII	607	352	423	667	965	466	675	377	409	670	496	520	6,627

官報は統計データ未公開

日経テレコン21 2007.7より全館利用可能に

図書館ホームページ、OPAC等アクセス統計 (H20.4~H21.3)

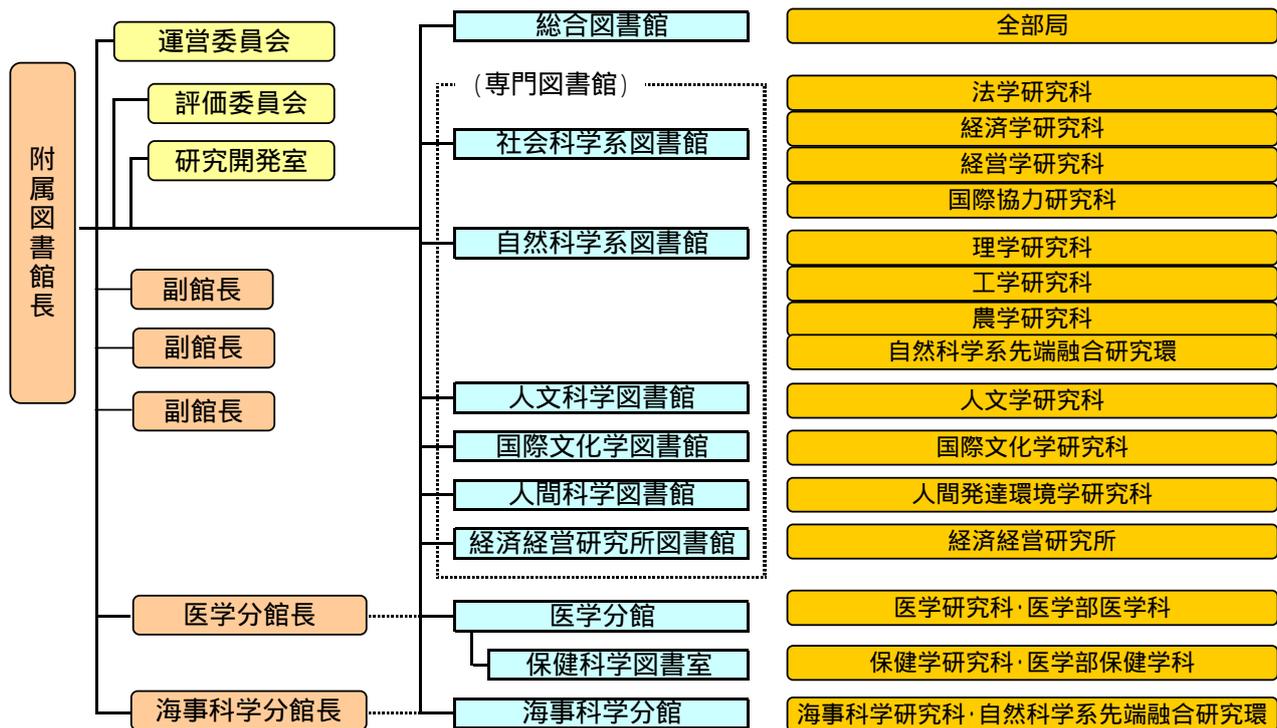
	H20.4	H20.5	H20.6	H20.7	H20.8	H20.9	H20.10	H20.11	H20.12	H21.1	H21.2	H21.3	合計
図書館トップページ	63,532	76,845	76,577	75,569	51,270	51,746	69,768	58,770	60,160	62,938	53,182	47,228	747,585
(うち学内)	42,690	55,099	54,830	52,424	31,398	33,235	48,826	40,162	41,403	39,783	35,680	31,296	506,826
(うち学外)	20,842	21,746	21,747	23,145	19,872	18,511	20,942	18,608	18,757	23,155	17,502	15,932	240,759
震災文庫トップページ	2,941	4,194	3,802	3,399	2,834	3,094	3,787	3,599	3,149	4,622	2,966	2,827	41,214
(うち学内)	327	284	506	314	271	276	395	252	206	315	202	245	3,593
(うち学外)	2,614	3,910	3,296	3,085	2,563	2,818	3,392	3,347	2,943	4,307	2,764	2,582	37,621
新聞記事文庫トップページ	5,121	6,234	6,441	5,750	5,171	6,009	6,400	6,290	6,113	5,835	5,153	4,886	69,403
(うち学内)	222	306	233	56	117	207	197	252	158	110	166	84	2,108
(うち学外)	4,899	5,928	6,208	5,694	5,054	5,802	6,203	6,038	5,955	5,725	4,987	4,802	67,295
OPAC延べ検索回数	133,953	190,111	191,562	234,848	125,024	116,307	185,206	167,316	152,950	182,221	133,599	92,547	1,905,644
(うち学内)	89,863	135,979	147,473	144,088	65,585	69,760	137,936	117,523	113,518	114,649	84,132	55,497	1,276,003
(うち学外)	44,090	54,132	44,089	90,760	59,439	46,547	47,270	49,793	39,432	67,572	49,467	37,050	629,641

リンクリゾルバー(S.F.X)利用統計(H20.4~H21.3)

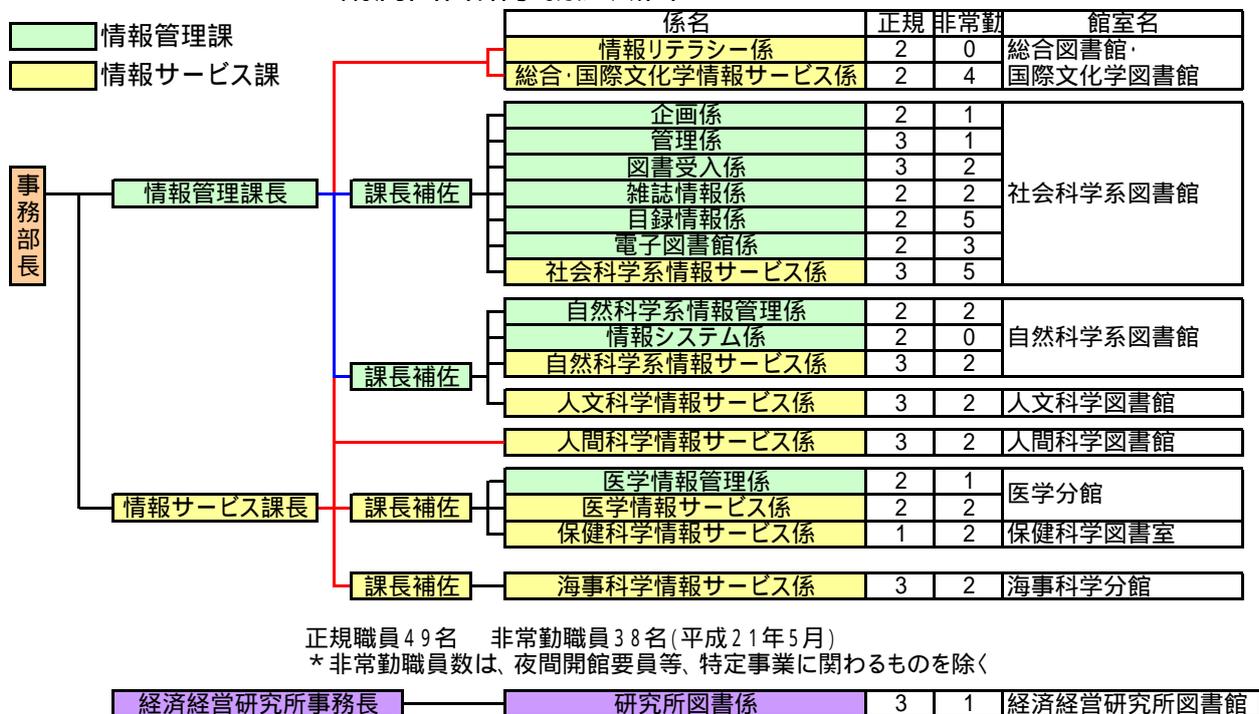
	H20.4	H20.5	H20.6	H20.7	H20.8	H20.9	H20.10	H20.11	H20.12	H21.1	H21.2	H21.3	合計
リンクリゾルバーアクセス数	11,695	16,189	15,651	16,796	11,749	15,392	20,093	16,738	17,195	17,936	16,387	13,514	189,335
電子ジャーナルリストから	6,941	8,758	8,898	8,061	5,692	6,164	8,487	6,923	6,691	7,001	6,549	5,533	85,698
DB検索結果から	4,754	7,431	6,753	8,735	6,057	9,228	11,606	9,815	10,504	10,935	9,838	7,981	103,637
フルテキスト	7,117	9,713	10,225	9,364	7,259	9,334	11,414	8,864	9,717	10,745	10,353	8,448	112,553
所蔵検索	2,112	2,939	2,668	4,449	2,200	2,882	4,755	4,833	4,455	3,970	2,595	2,697	40,555
文献複写依頼	431	579	397	630	351	609	774	929	647	562	390	459	6,758

アクセス数:電子ジャーナルリストやDBからのSFXリンクアイコン総アクセス数、所蔵検索:OPAC、Webcatへのアクセス回数
各DB(CiNii、WOS、JDreamII、PubMed、医中誌など)へのSFXのリンク設定は4月に順次設置済

< 附属図書館組織図 >



< 附属図書館事務組織図 >



平成20年度附属図書館諸会議一覧

<附属図書館審議会>

第1回： 12月11日（木） 16:10～16:30（於：事務局大会議室）
審議

- （1） 次期中期計画における教育研究基盤資料の維持・整備方策について

第2回： 1月15日（木） 14:40～15:20（於：農学研究科大会議室）
審議

- （1） 次期中期計画における教育研究基盤資料の維持・整備方策について

第3回： 2月12日（木） 18:30～18:35（於：事務局大会議室）
審議

- （1） 次期中期計画における教育研究基盤資料の維持・整備方策（答申案）について

<附属図書館審議会特別委員会>

第1回： 1月13日（火） 10:00～11:00（於：社会科学系図書館）
議事

- （1） 次期中期計画における教育研究基盤資料の維持・整備方策について

<附属図書館運営委員会>

第1回： 6月5日（木） 10:30～12:00（於：附属図書館プレゼンホール）
協議事項

- （1） 平成19年度決算について
- （2） 高額教育研究基盤図書を選定について
- （3） 平成20年度電子図書館事業について
- （4） 2009年外国雑誌購読調査について
- （5） 電子ジャーナル及びデータベースの整備に関するアンケート調査について
- （6） 平成20年度総合図書館学生用資料整備計画について
- （7） 教育研究基盤資料整備費補填対象雑誌の製本について
- （8） その他

報告事項

- （1） 各図書館・室報告について
- （2） 平成18年度総合図書館学生用図書選定の結果と評価について
- （3） 建物改修計画の状況について
- （4） 平成20年度前期図書館ガイダンスについて
- （5） その他

第2回： 1月4日（火） 13:00～14:50（於：附属図書館プレゼンホール）

協議事項

- （1） 教育研究基盤資料の整備について
- （2） 電子ジャーナル及びデータベースの整備に係るアンケート調査集計結果について
- （3） 平成20年度補正予算による整備計画について
- （4） 平成20年度年次計画進捗状況及び21年度年次計画について
- （5） 卒業生への図書貸出しサービスの実施について
- （6） 推薦図書読書案内システムの構築等について
- （7） 資料の不用決定について
- （8） その他

報告事項

- （1） 各図書館・室報告について
- （2） 神戸大学学術成果リポジトリの進捗状況について
- （3） 平成20年度常設展の開催について
- （4） 蔵書点検の進捗状況について
- （5） 平成20年度図書館各種ガイダンス（後期）について
- （6） その他

第3回： 1月20日（火） 10:30～11:30（於：附属図書館プレゼンホール）

協議事項

- （1） 平成21年度電子図書館事業について
- （2） 平成21年度附属図書館予算要求について
- （3） 神戸大学附属図書館所蔵地域史料調査事業について
- （4） 資料の不用決定について
- （5） その他

報告事項

- （1） 各図書館・室報告について
- （2） 附属図書館審議会報告について
- （3） 平成20年度展示会報告について
- （4） その他

第4回： 3月24日（火） 10:00～11:40（於：附属図書館プレゼンホール）

協議事項

- （1） 平成21年度附属図書館当初予算配分について
- （2） 平成21年度附属図書館学生用資料について
- （3） 新規導入の電子ジャーナル及びデータベースの選定について
- （4） 図書館関係規則の改正及び制定について
- （5） 図書資産の承継誤りについて
- （6） 資料の不用決定について
- （7） その他

報告事項

- （1） 各図書館・室報告について
- （2） 図書館審議会報告について
- （3） 平成20年度年度計画の達成度評価について
- （4） 高額教育研究基盤図書の推薦依頼について

- (5) 平成20年度第2次補正予算について
- (6) 選書データベースの活用について
- (7) 卒業生等への貸出サービスの運用について
- (8) その他

< 附属図書館長・副館長・分館長懇談会 >

第1回： 6月3日(火) 15:00～ (於：社会科学系図書館)

議題

- (1) 平成19年度決算について
- (2) 高額教育研究基盤圖書の選定について
- (3) その他

第2回： 9月16日(火) 10:00～ (於：社会科学系図書館)

議題

- (1) 卒業生への館外貸出しサービスについて
- (2) 電子ジャーナル及びデータベースのアンケート調査集計結果について
- (3) その他

第3回： 12月3日(水) 15:00～ (於：社会科学系図書館)

議題

- (1) 附属図書館審議会での諮問事項について
- (2) その他

第4回： 1月13日(火) 10:00～ (於：社会科学系図書館)

議題

- (1) 附属図書館審議会答申原案の策定について(附属図書館審議会特別委員会)
- (2) 電子図書館事業について
- (3) 平成21年度附属図書館予算要求について
- (4) 新規分の電子ジャーナル及びデータベースの選定について
- (5) その他

< 附属図書館評価委員会 >

第1回： 4月9日(水) (メール回議)

議題：

- (1) 平成16～19年度中期目標の達成度状況報告について

第2回： 10月14日(火) 13:00～ (於：社会科学系図書館)

議題：

- (1) 平成20年度計画の進捗状況及び21年度計画について
- (2) その他

第3回： 2月16日(月) (メール回議)

議題：

- (1) 平成20年度年次計画達成度報告及び特記事項について

< 附属図書館研究開発室会議 >

第1回： 5月26日(月) 16:00～ (於：自然科学系図書館)

協議事項

- (1) 平成20年度電子図書館事業計画について
- (2) 研究開発室設置要項の改正について
- (3) その他

第2回： 1月14日(水) (メール回議)

協議事項

- (1) 平成21年度電子図書館事業について
- (2) 平成21年度電子図書館事業経費要求案について
- (3) 平成21年度遊及計画案について

< 附属図書館研究開発室会議経済関係部会 >

第1回： 8月4日(月) 10:30～ (於：社会科学系図書館)

協議事項

- (1) 新聞記事の来年度以降の申請について・電子化の順序について
- (2) 住田の地図など歴史的資料の公開指針について
- (3) 社会科学系図書館の経済関係貴重書について

< 全学図書系係長会議 >

第1回： 5月9日(金) 15:30～ (於：附属図書館プレゼンホール)

議題

- (1) 神戸大学附属図書館ワーキンググループ等の設置について
- (2) 平成20年度事業計画及び課題の提出について
- (3) 卒業生の未返却図書の現状と対策について
- (4) 図書館ツアー(オリエンテーション)の実施状況について
- (5) その他

第2回： 7月30日(水) 15:00～ (於：附属図書館プレゼンホール)

議題

- (1) 平成20年度事業計画の進捗状況(各WG報告)について
- (2) 図書館予算執行状況及び係(館室)事業計画の経費が伴う事業について
- (3) 運営委員会議事内容の周知について
- (4) 図書館の業務改善対応策について

- ・ 分類標準化案への各館室対応について
- ・ 業務改善提案対応策について
- (5) 組織目標推進(管理)制度及び理想職務行動パターン推進制度の試行実施について
- (6) 図書館関係規則の整備について
- (7) その他
 - 1) 図書館職員長期研修の報告
 - 2) 学部学生の図書貸出状況について
 - 3) 卒業生の未返却図書の督促状況について
 - 4) 蔵書点検計画について
 - 5) 省エネ対策について

第3回： 12月16日(火) 15:00～(於：附属図書館プレゼンホール)

議題

- (1) 平成20年度事業計画の進捗状況(各WG報告)について
- (2) 推薦読書案内「先生からのおすすめ本」の実施について
- (3) 電子ジャーナル不正利用等に係る申合せについて
- (4) 超過勤務の縮減について
- (5) 平成21年度事業計画について
- (6) その他
 - 1) 国立大学図書館協会海外派遣研修の報告
 - 2) 補正予算による整備計画の実施状況について
 - 3) 附属図書館審議会報告

第4回： 3月25日(水) 15:00～(於：附属図書館プレゼンホール)

議題

- (1) 平成20年度事業計画の進捗状況(各WG報告)について
- (2) 附属図書館運営委員会報告について
- (3) その他

< 附属図書館審議会委員名簿 >

所属・官職	氏名	備考
附属図書館長	武田 廣	議長
人文学研究科長	佐々木 衛	
国際文化学研究科長	水田 恭平	
人間発達環境学研究科長	青木 努	
法学研究科長	山本 弘	
経済学研究科長	藤田 誠一	
経営学研究科長	加登 豊	
理学研究科長	樋口 保成	
医学研究科長	高井 義美	
保健学研究科長	石川 雄一	
工学研究科長	森本 政之	
農学研究科長	中村 千春	
海事科学研究科長	石田 廣史	
国際協力研究科長	高橋 基樹	
自然科学系先端融合研究環長	福田 秀樹	
経済経営研究所長	宮尾 龍蔵	
医学部附属病院長	杉村 和朗	
学術情報基盤センター長	鍋木 誠	
大学教育推進機構全学共通教育部長	沖原 勝昭	
理事（副学長）	堀尾 尚志	オブザーバー
理事（副学長）	土井 亨	オブザーバー
理事（副学長）	薄井 洋基	オブザーバー

< 附属図書館審議会特別委員会委員名簿 >

所属・官職	氏名	備考
附属図書館長	武田 廣	委員長
副館長	出井 文男	
副館長	塩谷 茂明	
副館長	三上 剛史	
医学分館長	熊谷 俊一	
海事科学分館長	井上 健	

事務部陪席者	氏名	備考
事務部長	棚橋章	
情報管理課長	奥田正義	
情報サービス課長	岩淵恭幸	
情報管理課長補佐	湖内夏夫	
情報管理課長補佐	石定泰典	
情報サービス課長補佐	北村文男	
情報サービス課長補佐	前田哲治	
企画係長	石坂泰郎	
雑誌情報係長	笠原夕美	

< 附属図書館運営委員会委員名簿 >

	職名	氏名	任期等
図書館長	理・教授	武田 廣	H19.4.1～H21.3.31
副館長 (社会科学系・図書委員長)	営・教授	出井 文男	H19.4.1～H21.3.31
副館長 (自然科学系・図書委員長)	環・教授	塩谷 茂明	H19.4.1～H21.3.31
副館長 (附属図書館評価委員長)	国・教授	三上 剛史	H19.4.1～H21.3.31
医学分館長	医・教授	熊谷 俊一	H19.6.1～H21.5.31
海事科学分館長	海・教授	井上 健	H20.4.1～H22.3.31
大学教育推進機構	教授	米谷 淳	H19.4.1～H21.3.31
人文学研究科	教授	福長 進	H19.4.1～H21.3.31
国際文化学研究科	教授 教授	松家 理恵 石原 享一	H20.4.1～H20.9.30 H20.10.1～H22.3.31
人間発達環境学研究科	教授	柳田 泰義	H20.4.1～H22.3.31
法学研究科	教授	窪田 充見	H20.4.1～H21.3.31
経済学研究科	教授	吉井 昌彦	H20.4.1～H22.3.31
経営学研究科	教授	正司 健一	H20.4.1～H22.3.31
理学研究科	教授	足立 匡義	H20.4.1～H22.3.31
保健学研究科	教授	傳 秋光	H20.4.1～H22.3.31
工学研究科	教授	飯塚 敦	H19.4.1～H21.3.31
農学研究科	教授	小野 雅之	H20.4.1～H22.3.31
国際協力研究科	教授	小川 啓一	H20.4.1～H22.3.31
自然科学先端融合研究環	工・教授	西野 孝	H19.4.1～H21.3.31
経済経営研究所	教授	小島 健司	H19.4.1～H21.3.31
学術情報基盤センター	教授	鳩野 逸生	H20.4.1～H22.3.31
附属図書館	事務部長	棚橋 章	官職指定による

< 附属図書館評価委員会委員名簿 >

職名 (委員は全て官職指定)	氏名	備考
図書館長	武田 廣	
副館長	出井 文男	
副館長	塩谷 茂明	
副館長	三上 剛史	委員長
医学分館長	熊谷 俊一	
海事科学分館長	井上 健	
事務部長	棚橋 章	
情報管理課長	奥田 正義	
情報サービス課長	岩淵 恭幸	

< 附属図書館研究開発室室員名簿 >

職名		氏名	備考
総括	図書館長	武田 廣	室長
震災関係資料 電子化部会	副館長(国)	三上 剛史	部会長
	国文・教授	大月 一弘	~H22.3.31
	都市安・教授	田中 泰雄	~H22.3.31
	文・教授	奥村 弘	~H22.3.31
経済関係資料 電子化部会	副館長(営)	出井 文男	部会長
	研究所・教授	富田 昌宏	~H22.3.31
	経済・教授	重富 公生	~H22.3.31
	文・准教	河島 真	~H22.3.31
学内研究成果 電子化部会	副館長(自)	塩谷 茂明	部会長
	農・教授	金子 治平	~H22.3.31
	国協・教授	木村 幹	~H22.3.31
	バイオ・准教	向井 秀幸	~H22.3.31
(部会に属さず)	基盤セ・教授	鳩野 逸生	~H22.3.31

平成20年度 附属図書館 予算・決算

(単位：千円)

事 項	平成20年度 予算配分額	平成20年度 決算額	比較増減	摘 要
経常運営費				
備品・消耗品費	9,784	11,984	2,200	備品費 4,788 事務用品 1,611 図書館用品 1,909 用紙類 518 電算消耗品 1,753 蛍光灯類 401 雑用品 1,004
事務用図書費	800	836	36	
印刷製本費	1,200	647	553	利用案内 456 封筒類 191
光熱水料	24,600	23,213	1,387	電気代 17,201 ガス代 2,838 水道代 2,920 重油代 254
通信運搬費	6,600	6,308	292	切手代 1,125 郵便料 3,115 電話代 318 学内資料搬送 1,750
借料及び損料	7,100	7,085	15	複写機 6,947 タクシー代 138
雑役務等諸経費	35,000	38,509	3,509	管理費 4,374 機器修理 770 廃棄物収集運搬 2,781 特高設備 1,574 清掃委託 8,967 警備委託 5,035 EV保守 6,325 消防設備点検 873 文献複写 1,392 その他保守・業務費 3,942 謝金 1,729 諸会費 207 雑費 540
非常勤職員給与等	93,000	91,129	1,871	給与 78,014 社会保険料 9,367 労働保険料 966 賞与引当金 2,782
電子計算機維持経費	120	20	100	情報基盤センター利用負担金
職員旅費	1,400	1,332	68	会議・研修会・講習会旅費 1,201 地下鉄カード 131
小 計	179,604	181,063	1,459	
経常事業費				
時間外開館経費	22,000	20,179	1,821	
外部委託	10,466	10,337	129	社会系、医学分館分
開館要員(学生)賃金	11,534	9,842	1,692	その他の館室分
電子図書館事業	20,000	19,988	12	
外部委託経費(コンテンツ作成)	4,000	5,193	1,193	
外部委託経費(学術成果リポジトリ)	1,000	703	297	
外部委託経費(遊及外注)	6,500	6,384	116	
リンクリソルバ維持経費	2,000	1,736	264	
アルバイト経費	4,500	3,472	1,028	
消耗品費	2,000	2,500	500	
その他事業費	1,200	403	797	
展示会経費	1,200	403	797	
図書館資料費	110,500	115,284	4,784	
学生用資料費	63,000	71,769	8,769	
震災文庫資料費	500	472	28	
外国雑誌センター館経費	35,000	38,471	3,471	
電子的情報基盤資料整備経費	12,000	4,572	7,428	
製本費	13,100	15,262	2,162	
業務改善経費	10,892	5,724	5,168	
雑誌製本業務	3,240	917	2,323	
目録登録業務	2,880	35	2,845	
書店発注システム	6,700	4,772	1,928	
書店発注システム(返金分)	1,928		1,928	
小 計	177,692	176,840	852	
運営費+事業費	357,296	357,903	607	
電算機借料				
図書館業務システム	13,869	13,869	0	学術情報基盤センターで一括処理
電子図書館システム	55,289	55,289	0	
小 計	69,158	69,158	0	
経常経費 計	426,454	427,061	607	

事 項	平成20年度 予算配分額	平成20年度 決算額	比較増減	摘 要
臨時的経費				
教育研究基盤資料整備費	290,000	290,000	0	外国雑誌を含む電子ジャーナル、データベース及び高額教育研究基盤図書等の維持及び整備のための経費 全学経費150,000千円+部局拠出分140,000千円
収入確保インセンティブ経費等	11,325	4,318	7,007	支出はILL文献複写料等支払料金
部局長裁量経費	14,021	20,535	6,514	無断持ち出し防止装置(総合・国際) 1,751 自動貸出装置(人文) 1,985 防犯カメラ装置新設及び増設(総合・国際、人文、自然系) 4,442 空調機修理(自然系、人文) 1,037 木製カウンター(人間) 588 閲覧机・椅子の増設(総合・国際) 2,528 館内放送設備(総合・国際) 630 ブラインド・カーテン(総合・国際、保健) 1,924 マイクロキャビネット(人文) 435 木金混合書架(保健) 854 他
山口誓子学術振興基金	100	99	1	
営繕関係費	16,367	16,367	0	社会科学系図書館の大閲覧室の空調設備設置及び照明器具更新
移転費	13,621	13,658	37	建物改修に伴う平成19年度からの繰越し分
総合・国際文化学図書館	9,378	9,378	0	
人文科学図書館	4,243	4,280	37	
建物新築設備費	4,326	4,326	0	建物改修に伴う平成19年度からの繰越し分
総合・国際文化学図書館	4,326	4,326	0	集密書架設置
職員厚生経費	55	55	0	
赴任旅費	197	197	0	
小 計	350,012	349,555	457	
外部資金				
科学研究費補助金(研究成果公開促進費)	12,500	12,500	0	戦前期新聞経済記事文庫データベース
国立情報学研究所CSI委託事業費	2,200	2,200	0	機関リポジトリ構築及び機関リポジトリに係る研究開発
山口誓子奨学金寄付金	877	877	0	山口文庫資料購入
小 計	15,577	15,577	0	
臨時的経費 計	365,589	365,132	457	

図書館セグメント 計	792,043	792,193	150
------------	---------	---------	-----

平成20年度 図書資料費実績

(附属図書館セグメント)

単位:千円

館室名	学生用資料				震災文庫 資料費	外国雑誌 センター	電子の情報 基盤資料整 備経費	教育研究基盤資料整備費		計***
	予算額*	決算額*	比較増減	図書購入冊 数				電子ジャーナル等	高額教育研究 基盤図書費	
総合図書館	17,209	18,209	1,000	4,875			4,572	269,997		292,778
社会科学系図書館	11,273	13,797	2,524	5,214	472	38,471			6,193	58,933
自然科学系図書館	12,846	14,639	1,793	3,378					1,132	15,771
人文科学図書館	2,357	2,894	537	673					1,662	4,556
国際文化学図書館	2,460	2,860	400	672					2,280	5,140
人間科学図書館	3,734	4,324	590	2,072					4,155	8,479
経済経営研究所図書館	1,000	990	10	118					1,028	2,018
医学分館	4,758	5,919	1,161	1,111					0	5,919
保健科学図書室	3,650	3,974	324	1,388					789	4,763
海事科学分館	3,713	4,164	451	3,496					2,764	6,928
小計	63,000	71,770	8,770	22,997	472	38,471	4,572	269,997	20,003	405,285

注* 図書の他 雑誌・新聞・電子資料などを含む

**電子ジャーナル経費・外国雑誌購読料補填経費

*** これ以外に、電子コンテンツ作成費 17,353千円(科研費補助金を含む)

(部局セグメント)

館室名	一般財源 図書資料費		
	館室備付 共同利用	研究室等 備付	計
総合図書館	2,762	526	3,288
社会科学系図書館	108,063	21,391	129,454
自然科学系図書館	21,187	22,610	43,797
人文科学図書館	11,579	4,858	16,437
国際文化学図書館	5,674	11,829	17,503
人間科学図書館	5,978	16,855	22,833
経済経営研究所図書館	19,741	1,106	20,847
医学分館	11,808	1,706	13,514
保健科学図書室	6,770	2,995	9,765
海事科学分館	6,701	2,481	9,182
計	200,263	86,357	286,620

(部局セグメント)

館室名	補助金等による購入				
	科研費	委任経理	受託研究	その他	計
総合図書館	296	0	0	0	296
社会科学系図書館	26,209	11,023	1,280	33	38,545
自然科学系図書館	13,603	2,864	1,657	72	18,196
人文科学図書館	9,244	125	266	5,811	15,446
国際文化学図書館	6,164	0	92	622	6,878
人間科学図書館	8,084	0	126	0	8,210
経済経営研究所図書館	949	71	14	0	1,034
医学分館	1,427	5,152	438	13,162	20,179
保健科学図書室	531	321	0	606	1,458
海事科学分館	1,148	0	85	24	1,257
計	67,655	19,556	3,958	20,330	111,499

(合計)

合計	(内数) COE等
296,362	0
226,932	0
77,764	0
36,439	0
29,521	0
39,522	0
23,899	0
39,612	12
15,986	0
17,367	0
803,404	12

平成20年度附属図書館活動日誌

< 4月 >

- 1 (火) ~ 8 (火) 改修に伴う臨時休館 (人間科学図書館)
- 1 (火) ~ 5月6日(火) 改修に伴う臨時休館 (人文科学図書館)
- 4 (金) ピッツバーグ大学との大学間協定に関する打合せ
< 於: 社会科学系図書館 出席: 理事・国際部・館長・部長・管理課長 >
- 7 (月) O P A C ガイダンス < 於: 自然科学系図書館 >
- 7 (月) ~ 18日(金) 図書館ツアーガイダンス
< 於: 社会科学系図書館・自然科学系図書館・
人間科学図書館・医学分館・保健科学図書室 >
- 8 (火) 入学式
- 9 (水) 第1回附属図書館評価委員会 < メール回議 >
図書館ツアーガイダンス < 於: 国際文化学部 >
- 10 (木) 留学生ガイダンス < 於: 六甲ホール >
- 12 (土) ~ 5月27日(火) 改修に伴う臨時休館 (総合・国際文化学部図書館)
- 14 (月) 改修に伴う臨時休館 (人間科学図書館)
- 16 (水) 理学部化学科ガイダンス < 於: 学術情報基盤センター分館 >
第1回人文科学図書館図書委員会
全国図書館大会第1回実行委員会 < 於: 兵庫県公館 出席: 部長 >
- 17 (木) ~ 18日(金) 附属図書館初任者研修 < 於: 社会科学系図書館 受講: 7名 >
- 21 (月) 第1回国際文化学部図書館図書委員会
- 23 (水) 文部科学省研究振興局 図書館視察 (社会科学系図書館)
- 25 (金) 第1回社会科学系図書館図書委員会
第1回海事科学分館図書委員会
近畿地区国立大学等職員採用図書系専門試験実施委員会
< 於: 京都大学 出席: 部長・管理課長 >
近畿地区国立大学図書館協会加盟館図書系人事担当課長・事務長懇談会
< 於: 京都大学 出席: 管理課長 >
国立大学図書館協会近畿地区協会総会
< 於: 京都大学 出席: 館長・部長・両課長 >
- 30 (水) 第1回人間科学図書館図書委員会
第1回経済経営研究所図書館図書委員会

< 5月 >

- 1 (木) 国立大学図書館協会シンポジウム < 於: 東京大学 出席: 館長 >
- 7 (水) 新装開館 (人文科学図書館)
全国図書館大会第1回運営委員会
< 於: ホテル北野プラザ六甲荘 出席: サービス課長補佐(医学) >
- 9 (金) 第1回図書館係長会議 < 於: 図書館プレゼンホール >
- 14 (水) 兵庫県大学図書館協議会役員会・企画委員会合同会議
< 於: 図書館プレゼンホール 出席: 部長・両課長他 >
- 15 (木) 神戸大学新任教職員研修 < 於: 六甲ホール 受講: 3名 >
外国雑誌センター館会議
< 於: 一橋大学 出席: 部長・管理課長・雑誌情報係長 >

- 16 (金) 第2回国際文化学図書館図書委員会
 国立大学図書館協会会計監査 <於：東京大学 出席：部長・管理課長>
 国立大学図書館協会学術情報委員会 <於：東京大学 出席：部長>
 国立大学図書館協会理事会
 <於：東京大学 出席：館長・部長・管理課長>
 日本医学図書館協会近畿地区例会
 <於：京都府立医科大学 出席：サービス課長補佐(医学)>
- 20 (火) 第1回自然科学系図書館図書委員会
- 20 (火) ~ 21 (水) 目録システム講習会模擬演習 <於：国立情報学研究所 受講：1名>
- 26 (月) 第1回附属図書館研究開発室会議 <於：自然科学系図書館>
- 26 (月) ~ 30 (金) 図書館ツアーガイドンス <於：人文科学図書館>
- 28 (水) 新装開館 (総合・国際文化学図書館)
- 28 (水) ~ 6月6日 (金) 図書館ツアーガイドンス <於：総合・国際文化学図書館>
- 29 (木) ~ 30 (金) 日本医学図書館協会総会
 <於：京王プラザ札幌 出席：サービス課長補佐(医学)>

< 6月 >

- 3 (火) 第1回館長・副館長・分館長懇談会 <於：社会科学系図書館>
- 4 (水) 第1回保健科学図書室図書委員会
- 5 (木) 第1回附属図書館運営委員会 <於：図書館プレゼンホール>
 労働安全衛生に係る研修会 <於：滝川会館 受講：1名>
 SciFinder ガイドンス <於：自然科学系図書館>
- 9 (月) 役員、部長等を対象としたコンプライアンス研修会
 <於：滝川会館 受講：2名>
- 9 (月) ~ 10 (火) 事務室移転に伴う臨時休館 (人間科学図書館)
- 10 (火) ~ 12 (木) 雑誌論文の探し方ガイドンス <於：自然科学系図書館>
- 11 (水) 兵庫県大学図書館協議会企画委員会
 <於：神戸市外国語大学 出席：部長・両課長他>
- 12 (木) トライやるウィーク 神戸市立本庄中学校(5名) <於：海事科学分館>
 CSI委託事業報告交流会
 <於：国立情報学研究所 出席：管理課長補佐(自然)他>
- 18 (水) ~ 20 (金) 目録システム講習会(雑誌コース)
 <於：国立情報学研究所 受講：1名>
- 24 (火) ~ 27 (金) 兵庫県下教育機関事務系職員研修 <於：理学部 受講：8名>
- 25 (水) 国立大学図書館協会マネジメントセミナー
 <於：仙台国際センター 出席：部長・管理課長>
 国立大学図書館協会総会レセプション
 <於：仙台国際センター 出席：館長・部長・管理課長>
- 26 (木) 国立大学図書館協会総会
 <於：仙台国際センター 出席：館長・部長・管理課長>
- 27 (金) 日経テレコン21説明会 <於：図書館プレゼンホール>

< 7月 >

- 1 (火) ~ 3 (木) 情報の探し方ガイドンス・電子ジャーナル / 雑誌論文の探し方
 <於：総合・国際文化学図書館>

- 2 (水) 大学図書館近畿イニシアティブ運営委員会
 < 於：京都大学 出席：部長・管理課長 >
- 4 (金) 第2回人間科学図書館図書委員会
- 7 (月) 第3回国際文化学図書館図書委員会
- 7 (月) ~ 18 (金) 大学図書館職員長期研修 < 於：筑波大学 受講：1名 >
- 9 (水) 第2回人文科学図書館図書委員会
 安全週間に係る研修会 < 於：カネテツフーズ 受講：1名 >
- 15 (火) ~ 8月6日 (水) 前期試験期特別開館
 (総合・国際文化学図書館・社会科学系図書館・人文科学図書館・人間科学図書館)
- 14 (月) 第2回保健科学図書室図書委員会 < メール回議 >
- 16 (水) 大学図書館長会議 (エルゼビア主催)
 < 於：大学コンファレンスセンター 出席：館長 >
- 18 (金) ライブラリ・コネクトセミナー2008
 < 於：千里ライフサイエンスセンター 出席：雑誌情報係長他 >
- 22 (火) 大学図書館近畿イニシアティブ能力開発専門委員会
 < 於：大阪大学 出席：管理課長補佐 (自然) >
- 22 (火) ~ 8月6日 (水) 前期試験期特別開館 (自然科学系図書館)
- 23 (水) 第3回人文科学図書館図書委員会
- 25 (金) 平成20年度専門図書館協議会全国研究集会分科会
 < 於：京都リサーチパーク 出席：電子図書館係長 >
- 29 (火) 第2回自然科学系図書館図書委員会
- 30 (水) 第2回図書館係長会議 < 於：図書館プレゼンホール >
- 31 (木) 救急講習会 < 於：六甲ホール 受講：4名 >
- < 8月 >**
- 1 (金) ~ 8月7日 (木) 前期試験期特別開館 (海事科学分館)
- 4 (月) 第1回附属図書館研究開発室会議 経済関係部会
 < 於：社会科学系図書館 >
 全国図書館大会第2回運営委員会
 < 於：神戸学院大学 出席：サービス課長補佐 (医学) >
- 7 (木) 学術著作権協会との懇談会 < 於：筑波大学 出席：電子図書館係長 >
- 11 (月) 兵庫県大学図書館協議会総会
 < 於：神戸市外国語大学 出席：館長・部長・管理課長他 >
- 19 (火) 電源設備点検 (停電) のため休館
 (人間科学を除く六甲台キャンパス各館)
- 20 (水) ~ 22 (金) 第一種衛生管理者受験準備講習会
 < 於：図書館プレゼンホール 受講：1名 >
 アプリケーションソフト研修 (エクセル応用)
 < 於：神大会館 受講：1名 >
- 22 (金) 会計業務システム基本計画策定プロジェクトヒアリング
 (於：本部 出席：管理課長補佐 (社会)・情報システム係長 >
- 25 (月) ~ 26 (火) アプリケーションソフト研修 (アクセス基礎)
 < 於：神大会館 受講：1名 >
- 26 (火) 全国図書館大会第2回実行委員会 < 於：兵庫県公館 出席：部長 >

- 29 (金) 救急講習会 <於：六甲ホール 受講：1名>
NPG・トムソンセミナー（近畿イニシア協賛）
<於：大阪大学 出席：サービス課長補佐（海事）>
- < 9月 >
- 2 (火) 大学図書館近畿イニシアティブ能力開発専門委員会
<於：関西学院大学 出席：管理課長補佐（自然）>
- 4 (木) 全国図書館大会第3回運営委員会
<於：兵庫県立図書館 出席：サービス課長補佐（医学）>
日本薬学図書館協議会研究集会
<於：神戸学院大学 出席：管理課長補佐（自然）>
- 5 (金) 古文書講習会 <於：文学部 受講：12名>
近畿地区人事交流のあり方（図書系）に関する打合せ
<於：京都大学 出席：部長・管理課長>
Ex Libris セミナー <於：梅田スカイビル 出席：電子図書館係長>
- 8 (月)～10 (水) 古文書合宿 <於：大山寺 受講：3名>
- 9 (火)～10 (水) 会計業務システム基本計画策定プロジェクトワークショップ
<於：ダイヤニッセイビル
出席：管理課長補佐（社会）・情報システム係長>
- 10 (水)～12 (金) 著作権実務講習会 <於：京都大学 受講：1名>
- 12 (金) 第4回国際文化学図書館図書委員会
図書館向け修復講座 <於：京都大学 受講：1名>
- 16 (火) 第2回館長・副館長・分館長懇談会 <於：社会科学系図書館>
学内会計監査（海事科学分館）
- 17 (水) 国立国会図書館データベースフォーラム
<於：国立国会図書館関西館 出席：1名>
- 18 (木)～19 (金) 全国図書館大会兵庫大会
<於：神戸学院大学 出席：館長・部長・管理課長他>
- 19 (金) 全国図書館大会兵庫大会 資料保存分科会
<於：神戸学院大学 出席：1名>
- 19 (金)～22 (月) 学内会計監査（医学分館）
- 22 (月) 業務改善と情報化に係る講演会
<於：理学部 出席：部長・管理課長・管理課長補佐（社会）他>
- 24 (水) 第3回保健科学図書室図書委員会 <メール回議>
- 24 (水)～26 (金) 目録システム地域講習会（図書コース）
<於：社会科学系図書館 受講：2名>
- 25 (木) 学内会計監査（社会科学系図書館・自然科学系図書館・人文科学図書館）
- 26 (金)～12月19日(金) 神戸大学附属図書館第3回常設展
「神戸から新天地へ - ブラジル移民の100年 - 」
<於：社会科学系図書館>
- 27 (土) 第3回神戸大学ホームカミングデー
<於：六甲台キャンパス 常設展・震災文庫イベント参加>
- < 10月 >
- 2 (木) 資金管理に関する内部監査（医学分館）

- 3 (金) 事務打合せ
 < 於：人と防災未来センター 出席：部長・電子図書館係長 >
- 7 (火) 第2回社会科学系図書館図書委員会
- 7 (火) ~ 10 (金) 近畿地区係長研修 < 於：人事院近畿事務局他 受講：1名 >
- 8 (水) 第4回人文科学図書館図書委員会
- 9 (木) ~ 10 (金) 大学機関別認証評価における訪問調査
 (総合・国際文化化学図書館・社会科学系図書館・自然科学系図書館)
- 14 (火) 留学生ガイダンス < 於：六甲ホール >
- 第2回附属図書館評価委員会 < 於：社会科学系図書館 >
- 15 (水) ~ 16 (木) 図書館ツアーガイダンス < 於：総合・国際文化化学図書館 >
- 17 (金) 第3回人間科学図書館図書委員会
 第5回国際文化化学図書館図書委員会
 国立大学図書館協会理事会 < 於：一橋大学 出席：館長・部長 >
- 20 (月) 第4回保健科学図書室図書委員会 < メール回議 >
- 21 (火) 第3回自然科学系図書館図書委員会
 雑誌論文の探し方ガイダンス < 於：自然科学系図書館 >
 学術情報メディアセンターセミナー
 < 於：京都大学 出席：電子図書館係長 >
- 21 (火) ~ 24 (金) 会計監査人による期中監査
- 22 (水) Web of Science ガイダンス < 於：自然科学系図書館 >
- 第1回医学分館図書委員会
- 23 (木) 第2回海事科学分館図書委員会
 雑誌論文の探し方ガイダンス < 於：自然科学系図書館 >
 大学図書館近畿イニシアティブ能力開発専門委員会
 < 於：大阪市立大学 出席：管理課長補佐(自然) >
- 24 (金) 第2期中期目標・中期計画に関する懇談会 < 於：学長室 出席：館長 >
- 28 (火) ~ 30 (木) 図書館ツアーガイダンス < 於：総合・国際文化化学図書館 >
- 29 (水) 図書館資料の探し方ガイダンス < 於：海事科学分館 >
- 30 (木) ~ 31 (金) NAIST 電子図書館学講座
 < 於：奈良先端科学技術大学院大学 受講：1名 >
- < 11月 >
- 4 (火) 第2回附属図書館運営委員会 < 於：図書館プレゼンホール >
- 5 (水) ~ 6 (木) 雑誌論文の探し方ガイダンス < 於：人間科学図書館 >
 大学図書館近畿イニシアティブ基礎研修「初任者研修」
 < 於：大阪市立大学 受講：1名 >
- 5 (水) ~ 7 (金) 第15回医学図書館研究会・継続教育コース
 < 於：関西医科大学 出席：サービス課長補佐(医学)他 >
- 6 (木) ~ 7 (金) 中期目標期間における教育研究評価に係る訪問調査
 < 於：総合・国際文化化学図書館 >
- 10 (月) ~ 14 (金) トライやるウィーク 神戸市立鷹匠中学校(3名)
 < 於：自然科学系図書館 >
 トライやるウィーク 神戸市立長田中学校(3名)
 < 於：社会科学系図書館 >

- 12(水) 年次計画等に関するヒヤリング <於：大会議室>
 研究交流会「Web2.0時代の図書館の情報発信」
 <於：神戸芸術工科大学 出席：電子図書館係長>
- 12(水)～13(木) 雑誌論文の探し方ガイダンス <於：社会科学系図書館>
- 18(火)～19(水) 学内会計事務研修 <於：大会議室 受講：2名>
- 19(水) 第5回人文科学図書館図書委員会
 兵庫県大学図書館協議会講演会 <於：図書館プレゼンホール>
- 20(木) 日本医学図書館協会近畿地区例会
 <於：京都大学 出席：サービス課長補佐(医学)>
- 26(水)～28(金) 図書館総合展・学術情報オープンサミット <於：パシフィコ横浜
 出席：情報管理課長補佐(自然)・電子図書館係長>
- 27(木) iMac講習会 <於：国際文化学部 受講：25名>
- 28(金) 国立大学図書館協会近畿地区協会事務連絡会
 <於：京都大学 出席：部長・サービス課長>

<12月>

- 2(火) 日経テレコン21説明会 <於：図書館プレゼンホール>
 国立大学図書館協会シンポジウム <於：京都大学 出席：2名>
- 2(火)～5(金) 近畿地区課長研修 <於：中之島合同庁舎他 受講：1名>
- 3(水) 大学におけるコンピューターソフトウェア管理セミナー
 <於：理学部 受講：1名>
 第3回館長・副館長・分館長懇談会 <於：社会科学系図書館>
- 3(水)～4(木) 雑誌論文の探し方ガイダンス <於：保健科学図書室>
- 5(金) セカンドライフセミナー <於：瀧川会館 受講：2名>
- 10(水) 神戸大学広報研修会 <於：理学部 受講：1名>
 電子ジャーナルシンポジウム <於：東京大学 出席：館長・部長>
 国立大学図書館協会臨時理事会 <於：東京大学 出席：館長・部長>
- 11(木) 国立大学協会リスクマネジメント研修 <於：理学部 受講：1名>
 第1回附属図書館審議会 <於：大会議室>
- 15(月) 国立大学協会個人情報保護研修
 <於：図書館プレゼンホール 受講：1名>
- 16(火) 第3回図書館係長会議 <於：図書館プレゼンホール>

<1月>

- 9(金) 大学図書館近畿イニシアティブ能力開発専門委員会
 <於：関西学院大学 出席：管理課長補佐(自然)>
- 13(火) 第4回館長・副館長・分館長懇談会 <於：社会科学系図書館>
 第1回附属図書館審議会特別委員会 <於：社会科学系図書館>
- 14(水) 第2回附属図書館研究開発室会議 <メール回議>
- 15(木) 第2回附属図書館審議会 <於：農学研究科>
- 19(月)～20(火) DRF地域ワークショップ <於：大阪大学 出席：電子図書館係長他>
- 20(火) 第3回附属図書館運営委員会 <於：図書館プレゼンホール>
- 25(日)～2月11日(水) 後期試験期特別開館
 (総合・国際文化学図書館・社会科学系図書館・自然科学系図書館・
 人文科学図書館・人間科学図書館)

- 28 (水) OPAC デモ < 於：大阪大学 出席：情報システム係長 >
- < 2月 >
- 1 (日) ~ 19 (木) 後期試験期特別開館 (海事科学分館)
6 (金) 目録 / ILL システム講習会担当者会議
< 於：国立情報学研究所 出席：目録情報係長 >
指定建築物の廃棄物管理責任者研修会
< 於：神戸文化ホール 受講：2名 >
- 9 (月) 次世代 OPAC デモ < 於：大阪大学 出席：管理課長補佐 (自然) >
9 (月) ~ 10 (火) DRF 地域ワークショップ関東 < 於：東京工業大学 出席：1名 >
12 (木) 第3回附属図書館審議会 < 於：大会議室 >
Word 研修 < 於：神大会館 受講：1名 >
全国図書館大会第3回実行委員会
< 於：兵庫県公館 出席：サービス課長補佐 (医学) >
- 16 (月) Word 研修 < 於：神大会館 受講：1名 >
第3回附属図書館評価委員会 < メール回議 >
- 17 (火) 兵庫県大学図書館協議会研究会 < 於：図書館プレゼンホール >
18 (水) CSI ワークショップ < 於：千葉大学 出席：電子図書館係長 >
第6回人文科学図書館図書委員会
- 19 (木) Word 研修 < 於：神大会館 受講：1名 >
図書館システムヒアリング < 於：自然系図書館 出席：管理課長補佐
(社会)・管理課長補佐 (自然)・情報システム係長 >
阪神淡路大震災資料の保存活用に関する研究会
< 於：防災未来館 出席：2名 >
- 19 (木) ~ 20 (金) 事務打合せ < 於：東京学芸大学・本省 出席：部長 >
23 (月) 事業計画に係るヒアリング < 於：自然科学研究棟 出席：館長・部課長・
管理課長補佐 (社会)・管理課長補佐 (自然)・企画係長 >
京都大学図書館機構講演会 < 於：京都大学 出席：2名 >
- 24 (火) 平成21年度近畿地区国立大学法人等職員統一採用試験説明会
< 於：関西学院大学 出席：1名 >
- 26 (木) ハラスメント相談員研修会 < 於：経済学研究科 受講：2名 >
財務会計システム図書館連携調査
< 於：九州大学 出席：受入係長・情報システム係長 >
- 27 (金) 「グリーン購入法」及び「環境配慮契約法」説明会
< 於：関西学院大学 出席：1名 >
- < 3月 >
- 2 (月) ~ 3 (火) 共同リポジトリ調査
< 於：広島大学・岡山大学 出席：管理課長補佐 (自然) 他 >
- 5 (木) 第4回人間科学図書館図書委員会
事務打合せ < 於：京都大学 出席：部長 >
- 6 (金) 第7回人文科学図書館図書委員会
第5回保健科学図書室図書委員会 < メール回議 >

- 10 (火) 資金管理監査 (社会科学系図書館)
次期情報システム 理事懇談会 <出席:管理課長補佐(社会)・
管理課長補佐(自然)・情報システム係長>
- 11 (水) 第3回海事科学分館図書委員会
第4回自然科学系図書館図書委員会
大学図書館近畿イニシアティブ運営委員会
<於:甲南大学 出席:部長・管理課長>
- 12 (木) 第3回社会科学系図書館図書委員会
- 13 (金) 第2回医学分館図書委員会
事務打合せ <於:三重大学 出席:管理課長補佐(社会)>
- 16 (月) NEC次期システム説明会 <於:自然科学系図書館>
- 18 (水) 「ラーニングコモンズ」フォーラム <於:名古屋大学 出席:2名>
- 19 (木) 事務打合せ <於:日本国際教育支援協会 出席:部長>
- 23 (月) 事務打合せ <於:日本国際教育支援協会神戸地区事務室 出席:部長>
- 24 (火) 第4回附属図書館運営委員会 <於:図書館プレゼンホール>
- 25 (水) 学位記授与式 <於:ワールド記念ホール>
第4回図書館係長会議 <於:図書館プレゼンホール>
- 26 (木) 事務打合せ <於:三重大学 出席:管理課長補佐(社会)>
- 27 (金) 各種評価結果に関する説明会
<於:滝川記念館 出席:管理課長・企画係長他>
永年勤続者表彰式 <於:六甲ホール>
機関リポジトリ業務打合せ <於:大阪大学>
- 30 (月) ピッツバーグ大学との懇談会 <於:特別会議室 出席:館長>